

早稻田學報

大正七年 第貳百八拾六號 二十月十日發行 每月一十日發行

本號目次

休戰祝賀式演說

校報

大隈總長

學費に關する規則認可 應用化學主任史迭 編輯及講演部長囑託 蹴球部の新設 參助會事務主任 維持員會 基金管理委員會 參助會委員會 政治科教授講師會 高等豫科委員會 高等豫科委員報告協議會 校友新聞通信記者招待會 臨時休校 科外講義 休戰祝賀式 愛知岐阜滋賀京都中等學校視察報告 山梨長野新潟三縣中等學校視察報告 圖書館報告

校友會報

校友會幹事會 早稻田學報編輯委員囑託 校友無名會 橫須賀校友の平沼學長招待會 大阪校友會 川崎造船所校友會 名古屋校友會 靜岡校友會 長崎縣校友會 長崎縣南高早稻田同窓會 群馬校友會聯合祝賀會 岐阜校友會 新潟縣校友會 鹿兒島縣校友會 釧路校友會 別會 釧路校友會再興 大連校友の庭球團歡迎會 校友會 米國ハーバード大學在籍者校友會 新嘉坡より 大阪同攻會消息 校友動靜 大隈侯爵紀念品贈呈資金申込芳名

學生會合

早稻田文藝會秋季公開講演會 稻友會

支那協會大講演會

運動

對明大弓術試合 稻門艇友會秋季大會 テニス團渡滿旅行記 故尾崎弓術師範追悼會

雜報

永樂俱樂部消息 祝典懸賞應募歌調 報知新聞主催婦人講演會に於ける總長學長の講演 平沼學長の講話 內ヶ崎教授の地方講演 早稻田中學校教職員諸氏の平沼學長招待 早速維持員嚴君の逝去 黒川前評議員逝去 丁藤前早稻田工手學校講師の逝去 故井上元規氏追悼會 校友平田鮎之助氏逝去 政治學會消息

東京牛込

早稻田大學校友會

電話番三五〇〇番

東京發售所 八九六番

意見

休戰祝賀式演説

(十一月十六日舉行の休戰
條約締結祝賀式に於て)

總長 侯爵 大隈 重信

各國大使公使閣下、滿場の諸君、前後五年間
暴威を奮つた所の中歐同盟は戦争の爲に苦し
んでた所の正義の力の前に和を乞ふの巴むを
得ざるに至つたのである、或る意味から云ふ
と降服の和を乞うたのである、是れが去る
十一日に成立した所の休戰條約である、全世
界は五年の間密雲に鎖されてゐて、晝夜を分
たず殆ど雷霆の打つが如く人は殺され家は焼
かれ、有史以來未曾有なる戦争の惨害を受け
てゐたのであるが、今日平和の曙光が始めて
現れたのである、吾人は一萬五千有餘の早稲
田學園の青年諸君と共に此の喜を表したいと
云ふので、茲に聯合各國の代表者諸君を御案
内致して而して祝辭を述るは吾人の最も光榮
とする所である、

ざるに至つたのである、是れが前世紀から當
世紀の初めに至る歐洲文明の危険状態を來し
た所以である、此のたびの戦争は主として過
てるオートクラシーに對するデモクラシー、
ミリタリズムに對するデモクラシーの戦であ
る、世界侵略主義に對する人道に基いた正義
平和の精神である、敵國は半世紀間君臣力を
合せて強大なる軍國の力を養成して、世界
を眩惑し、日本にも其の影響を及ぼした、是
れが所謂獨逸主義である、國家を合理的に組
織して而して國力を擧げて文化の下に活動せ
しめて以て世界に雄飛しようと云ふのである
から形の上から云へば立派なやうであるが、
是れは其の實文化ではないのである、英國の
は文化である、佛蘭西のも文化である、亞米
利加のも亦文化である、是れは眞の文化であ
るが、カイゼルの下に世界を奴隸的に支配し
ようと云ふが如きものは何處に文化があるか
宗教上から觀れば、獨逸は偉大なるルーテル
和尚の起つた國である、而して今日の獨逸は
神を汚したのである、獨逸はカントの如き大
哲學者の起つた國である、而して今日の獨逸
は全然カントの意に背いて、利己の野心を満
足する爲に軍國の力を用ひた、獨逸は學術の
上に藝術の上に他に卓越した所の文明を有つ
て居る、しかしながら奈何せん文化の上に於
ては中古以來の殘忍陰險なる利己的貪欲を現
出して居る、フレデリック大王時代の専制
的權謀術を以て世界を支配しようと云ふ主
義を實現して居る、即ち所謂マキャベリズム
である、故に帝國の内外に配置して居る所の
獨逸が十萬の多きに及んで居る、是れは今の
カイゼルが始めて行つたのではない、フレデリ

ツク大王の遺言がある、即ち覇權を占る爲に
は強い軍隊と探偵とを用ふる云ふことであ
る、是れが獨逸をしてミリタリズムに依つ
て戦争と實力とを以て今日の大を爲さしめ、
歐羅巴の覇權を占めんとするに至らしめた所
以である、其の爲に世界の平和は非常に威嚇
されたのである、其の爲に此のたびの戦争が
破裂したのである、そこで獨逸は戦争に強い
と云ふものがあるが、是れは獨逸に眩惑され
たのである、獨逸は決して強くも何ともない
のである、小さな戦には勝つたに相違ないが
しかしながら大なる戦には敗れた、到頭カイ
ゼルは帝位を退くの已むを得ざるに至つた、
獨逸人の常に云ふ有機的に組織した獨逸は土
崩瓦解した、露西亞も塊地利も變つたことは
ないのである、抑文化と云ふものは人の心を
文明にするものである、人を利己的の心を以
て壓へ、自己の目的の爲には手段を問はず、
人を殺し家を焼く、恐らく此のくらゐる慘毒の
甚しいものはない、古より戦争は實に禍であ
るが、今度の戦争は未だ會て歴史に見ない慘
毒を流した、人を苦しめた上に少しも之れを
罪惡と心得て居らぬ、他國を教唆して世界の
人心を戦慄させた、しかし泥棒にも五分の理
屈があつて、カイゼルの下に世界を支配しよ
うと云ふ口實として、獨逸の文化を以て世界
の劣等人種を支配すると云ふのである、然る
に其の支配はどうしてするかと云ふと人を殺
し家を焼く、就中敵を物質的精神的に破壊し
て而して人心を恐怖の下に陥れる、是れが獨
逸の今日の戦術戦略である、中古時代の戦術
にもさう云ふことを會て論じたものがある、
即ち三百年前國際法が始めて起つた際に多少

世界を苦しめて早く平和を來すと云ふことを云
つたことがある、しかし今日は時代が變つて
居るのである、學問の上にも思想の上にも物
質の上にも精神の上にも概括して云へば文化
的に進歩しなければならぬ、獨逸主義には聰
明なる人は誤られぬかも知らんが、青年の思
想はまだ固くないのであるから或は恐る斯の
如く過てる思想に眩惑することがないでもな
からう、茲に聯合諸國が剣を提けて人道の爲
に敵を打つたのである、所が前後五年も掛つ
て戦は已まぬ、目的のとほり獨逸を破ること
は出来なかつた、茲に於て俗人は思へらく獨
逸はなかく強い、聯合諸國の力は薄弱であ
ると、諸君は歴史に通じて居るだらう、支那
の古に一方に漢の高祖と云ふ英傑と一方に萬
夫不當のカイゼルのやうな項羽と云ふ二人が
居つた、項羽は七十餘戰皆勝つて、高祖は何
時でも敗北した、そこで人皆是れは漢の高祖
が意氣地がないのだと思つた、之れと同じく
聯合國もカイゼルの力に抵抗するとは出来な
いと云つて心配して居つた人も多かつた、然
るに項羽が遂に圍まれてしまつたと同じく、
戰略的に戰術的に大規模に進んで來た所の獨
逸に對して第一に英國が數千里の北海を封鎖
した、此の大艦隊の封鎖は殆ど獨逸の致命傷
であつた、潛航艇が極力此の封鎖を突き破ら
んとしたが結局失敗に了つた、米國は戦争を
する國でないといふはれて居たが、是れも平和
の爲、人道の爲に劍を執つて恐るべき力を現
した、米國の宗教的自由の精神、人道正義の
精神が燃えて來た、何處から燃えたかと云へ
ば皆各大學からである、嘗て本大學にも來て
講演された所のハーバード大學の著名なるベ

リオット博士、此の人は我輩より年が上で、八十以上の老人であるが、合衆國の輿論に先つて獨逸討つべし、人道の敵伐つべしと叫んだ、此の聲が合衆國の何百と云ふ諸大學に反響して、大學のブローフェツサルは書を抛ち劍を抜いて獨逸を打たうと云ふことになつた、故に合衆國の輿論は大學が導いたのである、實に大學の裡には合衆國の精神が宿つて居るのである、諸君も角の帽子を被つて居る、角の帽子には正義の精神が籠つて居る、今の井ルソン大統領は亦大學の總長であつた、學校の先生であつた、學校の先生が到頭合衆國の大なる諸學校の公論を拵へて、人道の破壊者を討つと云ふことになつたので、大統領は驟然立つて獨逸に向つて戰を開いた、亞米利加の精神は直ちに一億萬の健全なる合衆國人民に反響して、國民は劍を提げて起つに至つた、カイゼルは智恵があるやうに思つたが、實は智恵がない、米國が海を涉つて五萬十萬の兵を送ることは難いであらうと思つたが、業に己に戰線に立つて居る米國人は二百萬に及んで居る、尙後から五百萬も一千萬も送る準備が出来て居るのである、實にカイゼルの膽を寒からしめたのである、項羽は七十餘戰皆勝つたが、遂に垓下の一戰に於て敗北した、其の時には包圍攻撃を受けて四面皆楚歌の聲であつた、之れと同じく獨逸は英國の大艦隊の爲に北海を封鎖されて、頼みとする墺地利、匈牙利、勃牙利、土耳其に解體してしまつたをこで四面楚歌の聲となつたのである、昔の英雄は覺悟が早かつた、項羽は七十餘戰皆勝つたが、此の運命は天の我を滅す所なりとし、みづから刎ねて死んでしまつた、今は時

代が違つて、みづから刎ねて死ぬと云ふことは昔の英雄のすることである、しかし威嚴赫たりしカイゼルも内外の形勢斯くの如くなつて、正義の力に抵抗することは不可能なりと云ふことを知つて、みづから位を棄てて浪人となつた、此處には文學者が居るが、是れは文學の所謂大悲劇で、歐羅巴の君主が突然浪人になつたのである、曰耳曼の聯邦には許多の王國があるが、其の君主は大抵浪人となつただらうと思ふ、情實から云へば御氣の毒だが、斯くの如き悲劇の起るの理由は、即ち天の滅す所である、天が聯合諸國を助けたのである、そこで此れ等の君主は七十餘戰皆勝つた項羽と同じ運命に陥つた、歴史は繰返す、茲に平和の曙光は來つたのである所が前古無比の財を投じ人を殺して夥しい忠義の人を犠牲としたのであるから、犠牲の大なるだけそれだけ將來の平和と云ふことに努力するものが多くなるのである、各國の政治家も立法者も法律家も學者も如何にすれば斯くの如く悲惨なる状態を將來世界から除き得るか云ふ問題に就いて思を致すのである、今や方に休戦となつた、此の次に來るのが平和會議、平和會議の結果は斷じて一時の平和に非ずして、永久の平和であらうと私は信じて疑はぬのである、今日に於ける文化の進歩は權力ある少數の貴族軍人、或は軍人に隨伴する御用商人が自己の利福の爲に世界に禍を及ぼすことをもはや許さぬのである、斯くの如きことを繰返すが如き愚を學ぶことはもはやなくなると相違ないと思ふ、茲に永久の平和は來るであらう、どう云ふ形式を以て來るか解らぬが、此の犠牲の爲に永久の平和が來ると

すれば、此の大なる犠牲も亦光榮ありと思ひます、我が日本は聯合國と合して獨逸を敵として、少數の陸海軍隊は多少共同の働作をしたけれども、地理上境遇上からも直接に大戰の卷に出入して敵を討つとをしなかつたのは遺憾である、しかし平和の精神は等しく日本國民の心中に沸騰して居ると思ふ、血氣盛んな青年諸君は殊にさうで、國民義を好むものは必ず劍を抜いて歐洲の天地に奮闘したいと云ふ精神が漲つて居つたに相違ないと思ふのである、しかしながら境遇上地理上十分活動を爲すことが出来なかつたのは遺憾である、平和を回復して世界の恐るべき帝國主義を破壊した其の勢は主として直接に衝に當つた所の佛蘭西、白耳義、英吉利に歸せざるを得ない、其の代り一番苦しめられたのは白耳義である、それから遙に大西洋を隔て、合衆國と云ふ大共和國が之れと連盟した、此れ等の諸國は巨額の財を投じ、數百萬の生命を犠牲としたのであるが、何等利己的の意思に出たのではない、何等報酬を得ようと云ふ精神があつたのではない、目的とする所は、平和の攪亂者を征服し、常に世界の平和を威嚇する所の軍國主義を破壊するに在つた、之れを名けて義侠と云ふ、今度の戦ほど犠牲の大なるものはないと私は斷言するに憚らぬのである、茲に私は前後五年間犠牲の精神不撓不屈の精神を以て果敢勇烈なる戰を爲した所の聯合諸國に對して感謝をするのである、犠牲の戰は必ず平和を惹起す所の基となる、例を宗教に取つて見よう、宗教の起る偶然ではない、基督敎が羅馬に這入つて而して身を殺して仁を爲す的の宗教が起つて、犠牲の精神が今日の如

く宗教を盛ならしめたのである、之れと同じく人類の永久の平和を來す爲には、不幸ではあるが、已むを得ず犠牲を拂ふことが必要であると思ふ、此の犠牲になつた所の聯合諸國の陸海軍、不屈不撓の精神を以て其の意氣を壯にした所の聯合諸國國民に向つて吾人は熱誠の敬意を表しなければならぬ、今日の休戰條約は其の結果として成立つたのである、茲に私は諸君と共に聯合諸國を率ゐて居る所の君主大統領に向つて感謝の意を表したいと思ふのである、私が茲に聯合諸國の萬歳を唱へるから諸君は等しく恭しく熱誠なる敬意を以て私の發聲に和して貰ひたい。

校 報

- 學費に關する現則認可 暫に文部省に認可を申請し置きたる學費に關する規則は十月四日付認可ありたり。
- 應用化學科主任更迭 理工科應用化學科主任教授河可勇氏今回都合に依り辭任せられ、工學士小林久平氏後任として該學科主任に就任せられたり。氏は明治三十三年東京帝國大學理工科大學應用化學科卒業後更に大學院に入りて石油に關する事項を研究し、明治三十五年理工科大學講師に任せられ、後辭して清國に赴任し、滬甯中湖北、河南、直隸、湖南、貴州、四川各省の化學工業を視察して歸朝せられ、現今蒸溜及乾溜に關する事項研究試驗中なりと云ふ。
- 編輯及講演部長囑託 教授内ヶ崎作三郎氏に編輯及講演部長を囑託したり。
- 蹴球部、設 體育部にて今回新に蹴球

部を設け、教授北澤新次郎氏を之れが部長に
囑託せり。

●**參助會事務主任**、校友(三三八、大政)難波理
一郎氏は今回參助會事務主任として就任せら
れたり。

●**維持員會**、十一月八日定期維持員會を開き
たり。

●**基金管理委員會**、十一月十三日正午總長大
隈侯爵邸に於いて開催。

侯爵大隈總長、男爵澁澤委員長、原、村井
内藤各委員、平沼學長、淺野、鹽澤、田中
各理事、宮田、三枝兩會計監督

出席。前年度の基金資金の決算及今年度の基
金資金の豫算を可決し、尙ほ自今參助會の資
金も本會に於いて管理すべき事を可決したる
上、澁澤委員長の指名に依り村井、内藤兩委員
にて現金、有價證券及諸帳簿の検査を了し、
四時半閉會せり。

●**參助會委員會**、十一月六日午後五時より永
樂町永樂俱樂部に於いて開會。平沼學長、松
平、鹽澤、田中各理事列席、左記委員諸氏出
席種々協議する所ありて散會せり。

田中四郎左衛門齋藤義一 石井政吉
渡邊亨 上原鹿造 山澤俊夫

松山忠二郎 坪谷善四郎 昆田文二郎
増田義一 小松林藏 山田英太郎

宮田修 池田龍一 浦邊蘆夫
杉田駿 川口潔

●**政治科教授講師會**、十一月十五日午後三時
より大學部政治經濟學科專門部政治經濟科教
授及講師會を開き、左の事項に就き協議する

所ありたり。

大學部政治經濟學科專門部政治經濟科の卒業試
驗時期繰上げの件

來學年度教科書選定の件

●**高等豫科委員會**、十月廿三日の教授及講師
會に於て科長指名により内ヶ崎、吉田、民野
中村、大久保、渡、土屋の教授及講師を委員
に舉げ教授上其他附託せられたる事項に關し
十一月十二日及十九日の二回に互り午後二時
より恩賜館會議室に委員會を開き熟議の上決
定する所ありたり。

●**高等豫科委員報告協議會**、右委員會の報告
を爲さんが爲め、十一月廿六日午後二時より
高等豫科教授及講師の協議會を恩賜館會議室
に開き、内ヶ崎教授の報告あり、委員會の決
議に一二修正を加へ出席教授講師一同賛成せ
られたり、他に吉田教授の建議案提出ありし
も英語科擔任教授講師の部會に附議すべき事
項と認め午後四時半散會せり。

●**校友新聞通信記者招待會**、十一月二十二日
午後五時より麴町區永樂町永樂俱樂部に京濱
間在在の校友新聞及通信記者を招待し晚餐會
を催せるが、出席は左記八十餘名、平沼學長
松平、淺野、鹽澤各理事及前田幹事列席、席
上平沼學長、松平理事の挨拶あり。和氣霽々
裡に午後八時散會せり。

出席氏名(イロハ順)

- 井芹 繼志 伊藤 理基 伊豆 富人
- 石川 六郎 石尾信太郎 石田彌太郎
- 長谷川光太郎 八田 泰輔 服部 錠三
- 馬場 恒吾 新谷 六郎 新屋 茂樹
- 眞性 確成 十枝 省三 柄内 吉胤

●**臨時休校**、別項の如く十一月十六日日本大學
に於いて休戰條約締結祝賀會舉行に就き、又
同廿一日東京市主催の同祝賀會舉行に就き右
兩日臨時休校祝意を表したり。

●**科外講義**、十一月廿九日(金)午後三時講堂
に於いて各科學生の爲め左の科外講演ありた
り。

大戦の英米佛國民

西部戰場慰問使 益富政輔氏

支那及西比利亞の鐵道に就いて

鐵道院理事 長尾半平氏

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 豐田 直道 | 小田島定吉 | 小山山鏡南 |
| 岡部 甚一 | 岡田復三郎 | 渡邊實知郎 |
| 加藤 景福 | 葛西 秀雄 | 金子 光利 |
| 横關 愛造 | 田島 誠一 | 多田 滿長 |
| 多胡 淳一 | 高久邦三郎 | 竹林虎之助 |
| 立花 義順 | 根本 源壽 | 中澤 權藏 |
| 中村 長作 | 永田辨三郎 | 室谷甚四郎 |
| 村上猶太郎 | 村上 萬七 | 村岡 清次 |
| 野村 秀雄 | 倉辻 明義 | 楠 茂市 |
| 國田 學一 | 山口鼎多郎 | 藥師寺庄之助 |
| 山本 忠俊 | 矢田 義勝 | 矢野 縱横 |
| 山森 利一 | 山田 道兄 | 的場 郁翁 |
| 牧野 輝智 | 間宮 佐助 | 松岡 正男 |
| 松田 知之 | 藤田 和夫 | 枝元 長夫 |
| 青野 季吉 | 寒河江堅吾 | 佐藤 利吉 |
| 佐藤 進 | 佐伯 岩見 | 佐々 政徳 |
| 佐藤 憲弘 | 菊池彌三郎 | 木下 猛 |
| 菊池 茂 | 京田 武男 | 宮木 昌常 |
| 三浦 弘一 | 三宅 一齋 | 碧川金枝男 |
| 樋渡 正一 | 茂木源太郎 | 牧田氏代 |
| 鈴木茂三郎 | | |

●休戰祝賀式

開戦以來五星霜に互りて傷害を極めたる世界
大戦も對敵中歐同盟國の屈服に依り大正七年
十一月十一日休戰條約締結せられ、世界平和
の曙光漸く輝き來り、祝賀の歡聲世界に動搖
めき渡らんとす。本大學亦此の世界的祝意を
表せん爲め十一月十六日(土曜)聯合國本邦駐
割の大使公使を招待して之れが祝賀式を舉行
す。中央校庭に例の芙蓉峰形大天幕を張りて
式場と爲す。天幕内蜘蛛手に張り渡されたる
聯合與國旗、翠滴る綠葉に菊花を點綴せる裝
飾に月桂樹を排置せる式壇、何れも今日の祝
意を象徴して一種森嚴慶祝の氣分旺盛せり。
此の日平和祝賀日とも云ふべき秋晴れの好
天氣なりしかば、午前十時の定刻前より接踵
來り會する者教職員校友及學生生徒潮の如く
流石大天幕の包容力も包容し切れざるの盛況
にして、後れ到る者は幕外佇立の止む可から
ざるに至れり。やがて起る洋々たる陸軍軍樂
隊の奏樂に伴れて一同起立校歌合唱あり。後
ち囑目際涯を知らざるが如き大衆に對し……

●學長平沼博士

是れより開會の辭を述べます、數年に亘つた所
の世界の大戦も茲に其の局を告ぐるに至つたの
であります、是れ我が日本帝國が大いに慶賀す
る所であるのみならず、世界全般も亦慶つて祝
福する所であります、是に於てか我が早稲田大
學も亦微力ながら世界と喜を與にして、祝意を
表したいと云ふことを考へたのであります、事
咄嗟の間に起つて十分なる準備を整へることを
得なかつたのは遺憾であります、しかし此の
たびの喜は世界各國と之れを共にすべきもので
あります、故に、我が早稲田大學獨り祝意を表

するに止らずして、聯合各國を代表せられる所の大使公使諸閣下を御招き申上げまして、さうして喜を分つことが至當であると云ふことを考へたのであります、又此のたびの戦争に於きましては、我が帝國軍隊の力が與つてゐることは申すまでもない、是に於て、我が帝國陸海軍の代表者をも御招きを申上げたのであります、陸軍の方は目下施行されつゝある所の大演習の爲に招に應ぜらるゝことが頗る困難であると云ふことであります、海軍の方は幸にして參席を承諾されました、斯くの如く聯合各國代表者の御集會を願つて諸君と共に茲に世界的なる祝意を表したいと考へます、大使公使諸閣下が御多川の際にも拘りませす我が大學の微意を容れられまして、茲に代理者を派遣されまして、此の會を盛ならしむることを得しめられましたのは諸閣下の賜なりと考へまして、深く感謝の意を表します、此の次に總長閣下の演説を乞ふことになつてゐますが、其の演説の終結に至りました時に總長閣下の發聲で聯合各國皇帝陛下に大統領閣下の萬歳を唱へることになつてゐます、閣下の發聲があつたらば、満場の諸君は天地も崩るゝばかりの聲を發して之れに和せられんことを希望します、それから來賓の演説は英國大使閣下の代理が第一に演説せられまして、それが終りますと、米佛兩國大使閣下の代理も亦一場の演説をせられるはずになつてゐます、その後で軍樂隊が聯合各國の國歌を一々奏して以て聯合各國に對する祝意を表するのであります、順序は我が君が代を最初といたしまして、英米佛伊白と云ふことになつてゐます、但し中華民國及露西亞の國歌の樂譜を所持してゐないので、私の發聲に依りまして中華民國及露西亞國民に對する萬歳の一唱を以て之れに代へるといたしました、是れより總長閣下の御演説を願ひます。

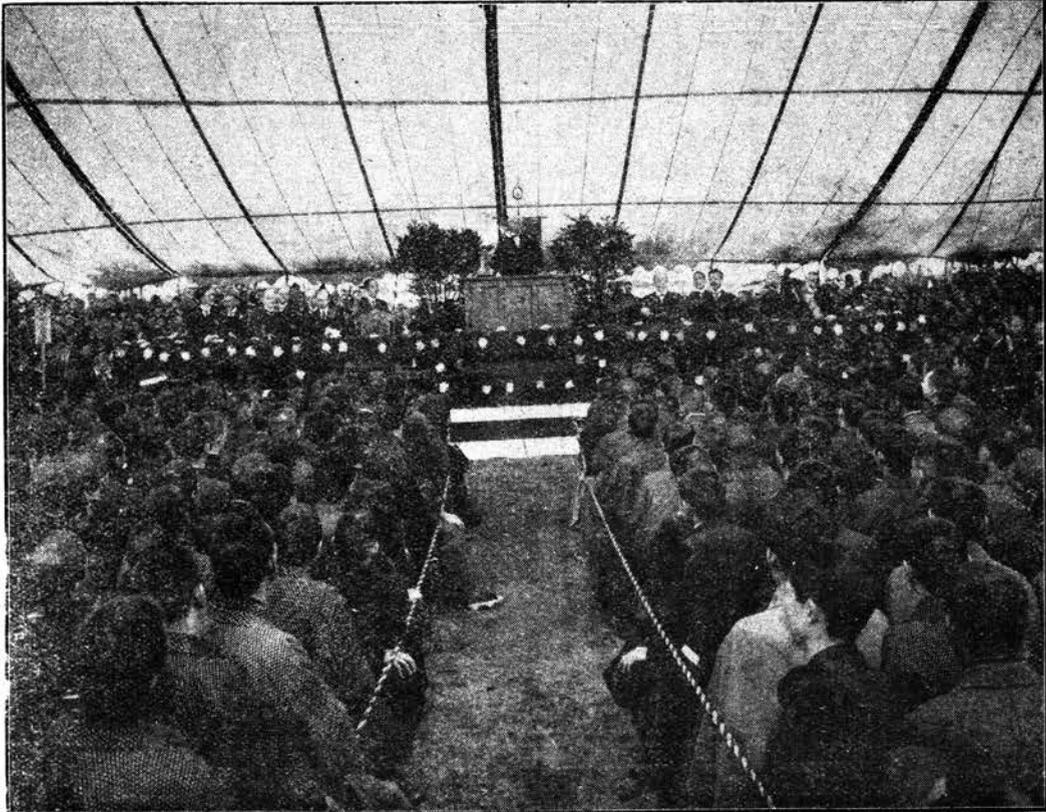
との式辭あり。次に天幕も裂けんばかりの拍手に迎へられて、**總長大隈侯爵の演説**(巻頭意見欄掲載)あり。終つて來賓の演説に入り同様なる大喝采大拍手に迎へられて來賓**英國大使代理ハムデン氏**

As the representative of the British Ambassador addressing the Allies of Great Britain I thank you for your kind invitation to this congratulatory meeting and I heartily join in and reciprocate your felicitations upon the conclusion of an armistice. Japan and the other Allies have been comrades in the war and we confidently look forward to yet closer comradeship in the future.

On the side of the Allies this war of defence has been truly fought in the cause of Peace. Now among the many ideas which this word "peace" suggests there is just one thought which I wish to submit for your consideration this morning. The term may seem to signify tranquillity, repose, sleep; but in reality it is the very antithesis of idleness, and one of the reasons why we desire peace is in order that the world may be once more free for Work. We know how Nature by typhoons and other exhibitions of brute force interferes with human toil. By the cataclysm of war however it is Man himself who hinders his fellowmen from labour. The present war, forced upon us by our enemies and therefore on our side a just war, has for over four years diverted our best energies from beneficent work to works of destruction; but to-day we congratulate ourselves on the bright prospect that the now dawning peace will make all right-minded nations, both

the strong and the weak, freer than ever before for good and ennobling work. The larger part of this fine work awaits the

task which lies before it. との演説あり次に嚴正流暢なる日本語を以て**米國大使代理ハレンタイン氏**



式賀祝結締約條戰休るけ於に内幕天庭校

平和は再び我が手に歸することになりました。私は此の平和を衷心より祝福する特權があり、休戰條約が平和克復の第一歩であることとに音に米國民及正義人道の爲に協力せる聯合國民の爲に深甚なる満足を表すべし事からであるばかりでなく、世界人類一般の爲に慶賀すべきところでございます。而して平和の克復は世界の歴史的一新時機の曙光を示すものであります、此の新時機の特色は

各國間の調和的協力と各國人民間の相互の同情
及提携でございます。今や吾々の最大の事業は
完成しました。世界は平和を愛護する國民の健
全なる發達を脅した蠻力より解放せられまし
た。吾々が將來國際關係に於て國家の行爲を律
すべき一般の原則は既に決したのでございま
す。吾々は斯る原則を規定することを得るの地
位に至りましたが、吾々の前途には世界の組織
を此の原則と完全に合致せしむるの一大事業が
横つて居るのでござります。此の大事業を遂行
する上に於いて、將來平和の國民たる諸君に於
て一の大責任を有することを自覺せられんこと
を並に希望します。

佛國大使代理ダンヒェール氏

Excellence,
Messieurs.

A l'heure où la France victorieuse dépose les
armes après une lutte ininterrompue de plus de
quatre années contre les ennemis de la civili-
sation et de l'humanité, je suis infiniment
heureux de pouvoir représenter mon Ambassade
à la belle manifestation que, sous la haute prési-
dence de son Excellence Monsieur le Marquis
Orsini, l'Université de wasscha organise au-
jourd'hui en l'honneur des alliés.
La spontanéité et la sincérité de vos applau-
dissements me prouvent quel écho profond elle
trouve dans vos coeurs, la joie immense res-
sentie aujourd'hui par la jeunesse française de
voir la république de Vinjure faite à la France
en 1871, devant le retour à leur bien aimée

patrie de l'Alsace et de la Lorraine si long-
temps opprimées, devant le juste châtiment de
tant de crimes et de dévastations commis par
les Allemands.....

Messieurs, la jeunesse française a versé sur
les champs de bataille le meilleur de son sang;
elle vient d'écrire à la pointe de l'épée la plus
belle page de l'histoire de France et elle récolte
aujourd'hui les incomparables lauriers que ses
sacrifices lui ont mérités..... Il est juste que la
jeunesse du Japon chevaleresque et brave ait
pour ses camarades de France et pour ceux des
pays alliés, un élan de reconnaissance et d'ad-
miration. Vous êtes de bons juges, Messieurs,
en matière d'honneur et de bravoure, aussi vos
applaudissements nous vont-ils tout particu-
lièrement au coeur et je ne veux pas quitter
cette tribune sans dire "Banzai" pour le Japon,
le Japon qui a été aux côtés des alliés pen-
dant la guerre et qui, grâce à vous, saura s'unir
de plus en plus à la France au cours de cette
période de paix que l'armistice du 11 novembre
1918 ouvre si glorieusement.

との演説あり。終つて一同起立總長大隈侯爵
發聲の下に聯閣各國元首の萬歳を三唱し、更
に軍樂隊に依つて國歌呂ヶ代を始め、英國國
歌、米國國歌、佛國國歌、伊國國歌、白國國
歌の吹奏あり。終つて平沼學長發聲の下に中
華民國並に露國國民の萬歳一唱以て國歌の吹
奏に代へ、茲に芽出度敷洋々裡に世界平和
祝賀式を了せるは正午過ぎなりき。

を掲ぐれば

英國大使代理

英國大使館書記官 ハムデン氏

米國大使代理

米國大使館書記官 バレンタイン氏

佛國大使代理

佛國大使館書記官 ダンヒェール氏

伊國大使代理

伊國大使館附陸軍武官 ヒリッビー氏

白國公使代理

白耳義公使館書記官 ワルゼー氏

中華民國公使代理

中華民國公使館 參事官 莊景珂氏

露國書記官

露國書記官 レンネ男爵

同 上

シラー氏

愛知、岐阜 中等學校視察報告

滋賀、京都 教授 松平 康國

十月廿八日出發名古屋に宿す二十九日津島に
赴き愛知第三中學を訪ひ山田時治田邊養一
二氏の授業を參觀す前者は漢文五年級後者は
二年級を受持つ其懇篤にして練熟なる宛然と
して良師の風あり校長も頗る満足の趣なるが
此外早稲田出身の教師に打田芳三郎氏あり英
語を教ふ三十日岐阜中學校に至りし處流行
感冒の爲め是日より休校となりしかば失望し
て去らんとせしに適々寶山校長の登校するに
遇しかば面會を求めて校狀を聴くことを得た
り同校に於ける早稲田出身の教師は關滿の田
中實一及び小松稻雄英語の鹽路敏郎及び玉川
得藏、四氏にして孰れも精勵忠實にして殊に

稱すべきは其人格に在り每週研究會を開き教
授法並に教科書に就きて講習切實を怠らざる
由校長は善き人を得たりと深く喜び居れり是
日京都に至りて宿す十一月一日大津に赴き
滋賀縣師範學校を訪ひたれども是れ亦本
日より休校となり參觀することを得ず乃ち京
都に遡り東山中學校を訪ひ赤堀正英氏の授
業を觀んとせしに同氏は九月辭任して去りた
る由なれば幹事に遇ひ同氏の勤振を質せし處
能く嚴格なる校規に順應して過失なかりしと
の事なり二日市立第一商業學校を訪ふ亦
休校なりしかば校長に遇ひ記録萬作氏の評判
を尋ねたるに頗る満足なる由を答へ將來優待
の意志あるもの、如し

此他京都にて參觀の豫定なりし諸學校は第一
中學を首として或は數日前より或は是日より
休校となりしを以て夜汽車にて歸途に就く

山形、長野 中等學校視察報告

新潟、三縣 教授 勝俣銓吉郎

大正七年十月二十四日吾早稲田大學より山
梨、長野、新潟三縣に於ける中等學校英語
授業參觀の使命を受け、新宿發午後六時三
分の汽車にて甲府に向ふ。同夜甲府に着、
佐渡幸に投宿。翌二十五日

甲府中學校

參觀、校長田村喜作氏并に校友安居瀧三郎、
兩氏に面會。流行性感冒にて講師の缺勤せる
もの十二三名、生徒中亦多數の缺席者ありて
平常の授業を行ふ能はず、僅に三年級の補缺
授業を一時間參觀したるに止まる。余は補缺
の意味にて五年級の爲に英語に關する一場の

講演を爲すも苦しからざる旨を校長に通じたるも混雑の際とて手配出来兼ね其運に至らざりき。午後は臨時遠足の催あり休業との事なれば辭して

甲府市立商業學校

に向ふ。茲所にも感奮の爲教師生徒共に多數の缺席者あり、僅に本科一年級の講義を一時間參觀し得たるのみ。參觀中にも生徒の一人風邪の爲か鼻より出血甚しく退室せるを看たり。

市中は市制三十年紀念の共進會最終日とあつて多少の賑ひを示せど裝飾は生氣なく盛過たる花の如く一種の淋味を帯びたり。

甲府は今回二度目なるが前回は出水の爲交通遮斷の番狂はせに遭ひ今度は世界感奮の流行にて十分に學校參觀の目的を達する能はず重ね重ね遺憾の事どもなり。午後の汽車にて甲府を立ち夜松本着、ひだ屋に投宿。翌二十六日(前夜寒氣甚しく屋上霜白し)早朝

松本中學校

參觀。校長高橋清一郎氏に面會。壹年級及貳年級譯讀の授業參觀。三年級以上は豫行演習の爲學課なく參觀するを得ざりき。授業終了後熱心なる英語教師三四名と共に英語教授に關し種々意見を交換せり。

歸宿後校友御子柴賴一、赤羽齊の兩氏(共に中學英語擔當)來訪。兩氏の勸むるま、翌日の日曜を利用して木曾の秋色を探ることに決し、午後の汽車にて木曾福島に着、萬屋に泊。翌二十七日朝同地を立ち汽車にて上松に向ひ車窓より心行く迄樹葉美、山流美を觀賞す、寔に鐵道沿線類なき風致なり。上松より引返して長野に向ふ、扇屋投宿。翌二十八日

長野中學校

參觀。校長江口俊博氏に面會。四年級の譯讀及作文、三年級の作文、二年級の譯讀等四時間の授業參觀。放課後直に教員會議あり全體の英語教師諸君と十分に會談の機會を得ざりき。校友篠原惟運氏より畫飯の馳走に預り同氏并に同じく早稻田出身たる村澤晴藏氏と會食、英語教授に關し雜談を取交せり。午後長野發の汽車にて高田に向ふ、高田館投宿。翌二十九日

高田中學校

參觀。校長鈴木卓苗氏并に校友古澤與總、灰野文平兩氏に面會。折しも同校主催の下に中等教員英語講習會開會中にて新潟縣十一校よりの英語教員來集し居たり。講師として高等師範の長食教授出向せらる。期間は三日にて當日は二日目なりき。余も亦同會既定のプログラムに依り參觀。最後の時間に長食教授の模範教授あり、これをも參觀したり。又鈴木校長の希望にて余は講習會員并に同校英語教師諸君の前に中學英語に關し一場の演説を試みたり。學校より午餐の接待を受け且俾を以て宿に送らる。この手厚き款待に對し深く感謝の意を表す。午後の汽車にて高田を立ち新潟に向ふ、大野屋支店投宿。翌三十日

新潟中學校

參觀。校長三根圓次郎氏に面會。一年級より五年級迄一時間宛參觀。校長より辨當の接待に預る。放課後校長よりの依頼に應じ同校英語教員諸君の爲に參觀中の感想其他英語に關する雜件を二時間纏述し四時頃退出歸宿。中學校の中山準藏、小黑猶一の兩氏并に新潟市の校友齋藤庫四郎、荒川謙二、高橋銳二、

安藤文祐の四氏は余の爲にレストラント、イタリヤに於て一夕の清宴を張らる。深く同校友諸氏の厚意を謝す。翌三十一日早朝新潟發汽車にて歸京。

今回の旅行は出發前既に多少感奮の氣味にて旅中不順の寒氣に出會益病勢を募らせ爲に大に前途を悲觀したるも無事使命を果し得たるは何よりの幸福なりき。參觀の諸學校に於て校長始め教務主任、校友其他英語教員諸君より鄭重なる接待に預り心地よく參觀を了へたるは余の大に満足に感ずる所にて衷心より右諸氏の厚情を鳴謝す。參觀より得來りたる中等英語に關する感想に就ては何れ適當の機會を得て發表することとすべし。終に臨んで今回の旅行にて親しく接觸するの光榮を得たる多數の英語教員諸君の健康を祈り併せて諸君が今後益中等英語能率増進の爲に努力奮闘せられんことを切望す。

圖書館報告

●閱覽人員及貸出圖書數 九月份閱覽統計左の如し。

種別	閱覽人員	貸出圖書數
學生貸出	九、五六二	一七、八八五
特別貸出	五三	一九〇
館外貸出	二三四	三、二六六
公衆貸出	二五六	六七四
合計	一〇、一〇五	二二、〇一五
一日平均	三三六、八	七三三、三

●圖書新加月報 本館九月份新加圖書は總計二百三十四部四百五十冊にして、内和漢書百四十六部三百四十八冊洋書八十八部百二冊なり、之を細別すれば左の如し。

和漢書之部

部 門	購 入		寄 贈		合 計
	部數	冊數	部數	冊數	
歷史傳記	四	三三	七	二二	一一
地理紀行	四	三三	六	二二	一〇
宗 教	二	二二	四	二二	二四
哲學倫理經學	二	二二	三	二二	二五
法 律	七	二二	三	二二	一〇
政 治	七	二二	四	二二	一一
經濟財政	一〇	二二	二	二二	一三
統計報告	二	二二	一	二二	三
國 文 學	二	二二	六	二二	二四
理 學	三	二二	四	二二	二七
教 育	一	二二	一	二二	二
小 說	一	二二	三	二二	二四
支那文學	一	二二	四	二二	二五
語 學	一	二二	一	二二	二
外國文學	四	二二	一	二二	五
美術工藝	六	二二	五	二二	一一
產 業	一	二二	一	二二	二
隨筆叢書	三	二二	二	二二	五
體操遊戲	一	二二	一	二二	二
兵 事	一	二二	一	二二	二
醫 學	一	二二	一	二二	二
新聞雜誌	一	二二	一	二二	二
合 計	八	二二	六	二二	一四

洋書之部

部 門	購 入 寄 贈 合 計			
	部數	冊數	部數	冊數
部 門				
歷史傳記	二	三	三	二四
法 律	一	四		一
哲 學	六	六		六
政 治	二六	二八	二	二八
經 濟 財 政	一	一		一
文 學	七	七		七
語 學	二	二		二
地 理 紀 行				〇
教 育	二	二		二
心 理 倫 理	六	六		六
理 學 工 學	三三	三三		三三
社 會 學	二	二		二
美 術 工 藝	〇	一		一
宗 教	〇	〇		〇
辭 書	一	一		一
統 計 曆 報 告	〇	二		二
商 業 交 通	二	二		二
兵 事				〇
圖 書 館 書 史 學	一	一		一
露 語 圖 書	二	二		二
合 計	八三	九七	五	一八〇

内研究費用三十六部三十七冊

校友會報

●校友會幹事會 十月十六日午後五時麴町區丸の内永樂俱樂部に於て校友會幹事會を開き母校創立三十五年記念式舉行に就き、祝意を表する爲め校友大會開催の件を協議し滿場一致を以て記念式翌日午後五時より上野精養軒に於て開會することを決議したり、尙田村三治氏の發議に依り、早稻田學報の編輯に本會幹事會より五名の委員を擧げて之を援助することとなり、其委員の指名を平沼會長に一任し、同八時過散會せり、當日の出席諸氏左の如し。(次第不同)

- 平沼 淑郎 徳永 重康 杉田金之助
 - 並木覺太郎 飯島廣三郎 田村 三治
 - 前田 多藏 關 順一郎 山田 末吉
 - 石橋 湛山 石澤久五郎 杉坂 源清
 - 杉田 駿 鈴木佐平次 早川 徳次
 - 小汀 利得 都丸 隆 石川 勝治
 - 園田 格 堀川 直吉 丹尾誠之助
- 早稻田學報編輯委員囑託 前項校友會幹事會の中合により今回平沼會長より左の五氏に早稻田學報編輯委員を囑託せり。

山澤 俊夫 田村 三治 都倉 義一
小汀 利得 堀川 直吉

●校友無名會 無名會とは會名に非ず、名無きの意なれど、正しくは大正六年度英文科卒業生會。「久し振りで集まつてみよう」が動機だけに、嚴めしい目的も、むづかしい理屈もない、ざつとばらんな膝つき合はての會合。まづい絃とまづい酒精に酔へるほどの、のんびりした集りにて、これでは年に一二度は開かうといふ事に定まつて散會。出席者は左の

諸氏であつた。(順序不同)(世話役報)

- 服部 信三 田中孝一 野田 高梧
- 宮地 幸雄 永田 衛吉 堀木 克三
- 宗川 保 太久保好美 森 輝次郎
- 岡田龜三郎

横須賀校友の平沼

學長招待會

横須賀市官民社交團體たる清話會は十一月三十日を以て母校學長平沼博士を招請して其講演を聴聞する事となり、同會理事總代新名郵便局長及校友總代山室若松兩氏停車場に於て、十二時五十分着横の博士を會場高等女學校に御案内したり。博士は午後二時半より約二時間に亘り「文明の徑路と日本帝國」の題下に其雄辯と達識を以て七百の聴衆に多大の感動を與へられ、尙ほ演説の前後に於ても來聴の市長市會議長陸海軍將校各官衛長市名譽職教師諸君と盛んに對談應酬せられたり。當日横須賀中學校及高等女學校の上級生は特に博士の高説を聴聞の希望ありたるを以て、各受持教師諸君之を引率して參列し、博士は是等の學生に對し、演説中に於て種々有益の訓示を與へられたるは學生の大に感激する處なりき。

講演終了を待ち、横須賀校友會は母校新學長を市内第一の旗亭魚勝樓に迎へて招待會を開催せり。席定まるや、學長には昨年就任前後の校勢より説起して現況及今後の要務に迫り殊に經常維持費の増加と大學令施行後の校費蓄積問題に關し力説せられ、併せて早稻田大學贊助會の趣意を解説して校友の努力を要求せらる、處あり。列席の校友は學長の熱誠に

對し深甚の感動を受け、今後益々母校に盡すの覺悟を決するの申合せを爲し、差向き贊助會加入申込を爲す事に即決し、其他學校の近狀に關し互に隔意なき意見を語り合ひ、學長御來横の紀念にとて博士を中心に撮影を爲し歡談時の移るを忘れたり。學長は當夜九時四十五分發列車にて歸京せられ、校友總代新名山室の兩人御見送申上げたり。當夜の出席者左の如し。(會幹報)

- 小林伊太郎(前市會議員) ●山室榮作(千代田保險出張所長) ●誠山恭雄(市會議員) ●若松精一(日本製鋼出張所長) ●吉田國二(中學校教諭) ●高橋卯三郎(同上) ●武部精一(高田商會員) ●谷口廣(浦賀船渠技師) ●松崎巖(同上) ●新名直和(横須賀郵便局長)

尙ほ横須賀市長たる海軍少將奥官衛氏(准校友)來會の筈なりしも支障の爲め不參せられたるは他の校友數氏の缺席と併せて甚だ遺憾とする處なり。

●大阪校友會秋季大會 九月二十七日午後五時大阪ホテルに於て開催。常任幹事福島武之助君座長席に就き、先づ開會の挨拶をなし并に前年度決算報告をなして滿場の承認を得たり。次に評議員中井準太、莊保勝藏兩君の任期満了に付き改選の件を議事に附したるに、全會一致を以て兩君共再選に決し、次に本會幹事十二名の改選を附議せるに、銓衡委員五名を擧げ銓衡する事となり、左記の五氏座長より該委員に指名せられ、協議の結果左の如く決定せり。

- 銓衡委員 砂川 雄峻 岸本市太郎 原田駒之助
- 鈴木 茂雄 八杉 眞宗
- 幹 事 山口藤次郎 早瀬太郎三郎 丸山 幹治

長岡 重松 福島武之助 石原善三郎
 本野 博章 原田駒之助 西尾 謙吉
 吉富靜三郎 中山 豐三 桑原 壽三
 次に山口藤次郎君の發議に依り大學商科二年迄在學せる大林義雄君を校友に推薦する事を決し、七時議事を閉じ、大食堂に於て開宴。歡を盡して九時散會せり。出席者氏名左の如し。

- 今井 錠一 井手時太郎 石原善三郎
 伊藤 孫作 和泉 榮 早瀬太郎三郎
 原田駒之助 早瀬 太三 原 萬一郎
 西尾 謙吉 西村 榮藏 細野 長盛
 本野 博章 富田儀三郎 豐岡佐一郎
 小幡 運 於勢 升 岡谷登三郎
 荳谷瀧三郎 奥谷宇之助 吉岡 新八
 谷典 利吉 田島 孝一 武田 鼎一
 高山 圭三 田中 靜衛 田中 忠治
 上屋 昌義 中山 豐三 中島好太郎
 中川鏡三郎 中野幸太郎 中谷 篤三
 中井 準太 村田 正雄 鶴岡 重光
 桑田 季次 八杉 良宗 山口藤次郎
 柳下 實 山内繁次郎 大和藤兵衛
 松原淳太郎 福島武之助 小林房之助
 小林 理貞 江濱 輝三 海老友次郎
 寺澤 直人 淺本 徳三 朝柄 恒七
 佐々木文作 佐藤 忠義 岸本市太郎
 岸本 丑松 三島三郎兵衛 三田村長十郎
 宮澤 胤勇 莊保 勝藏 澁谷貞次郎
 清水 平治 清水 銀藏 平野 俊三
 廣渡源之助 廣瀬龜次郎 平泉豐三郎
 杉本 辰治 銀木 茂雄 砂川 雄峻
 菅原英次郎 諏訪 直夫

懇談會を開く。來り會する者左記十三名。互に胸襟を開き、府下教育界の爲めに益々奮闘せん事を期し、併せて母校の隆盛を計り、近日開催の稻風會(近畿教育關係者同窓會)には奮つて出席せん事を申し合はせて午後六時散會す。出席諸氏左の如し。

- 伊知地聖賢(西野田職工) ●瀧本貞一(今宮職工) ●押見幸三郎(天王寺中) ●牧野繁好(同上) ●荒井元四郎(桃山中) ●藤井周(同上) ●佐野實一郎(同上) ●和島友義(夕陽丘女) ●土屋充(明星商) ●星野安藏(今宮中) ●土屋昌美(同上) ●宮本富雄(同上) ●青谷米太郎(同上) ●神戶三日會 神戸在住海運業に従事せらるる校中諸氏より成り、毎月三日に會合して、同志の團結親睦を圖る目的たる同會は、去九月三日發會の小宴を催し、更に十月三日午後同市相生町三ツ輪亭に於いて第二回を開催し談笑縱横の間に獻酬して各自胸襟を披き、やがて校歌高唱散會を告げたるが、近來稀なる盛會なりしと云ふ。出席は左の諸氏なりき。(順序不同)

- 深澤 増吉 山本藤兵衛 河邊七太郎
 齋藤 治七 田島 信一 井上紋五郎
 新延 義成 岡村 五六 中村憲太郎
 竹口 兵吉 溝口 伴六 出雲井忠郎
 財間 曉雄 磯前參次郎 天野 康夫
 新田 源一 萬俣 賢一 松山 徳二
 萬代 顯男 青木 宗重

何れも大に健闘して居る。十月十一日夕相生町加藤に第一回校友會を催し、「都の西北」に元氣をつけ、談論風發意氣衝天の概を示し、満座齊しく胸襟を披きて興の盡くるを知らず名残惜しき散會を告げしは午後十一時なりき。出席は

- 勝田 忠平 吉川 正雄 吉野 圭六
 竹内 勇吾 藤本 菊一 遠藤 長夫
 青木 茂 來田太三郎 溝口源太郎
 鈴木 四郎
 ●名古屋校友會 暑氣米騒動及動員令等の支障のため延引せし當校友會を九月十七日午後六時より富澤町階樂亭に於て開催す。當日は評議員の改選其他重要事項あるため、定刻より續々出席。左記四十三名の多數に達し、近來稀に見る盛會なりき。デザートコースに入るや、黒澤幹事開會延引の謝辭を述べ、評議員改選の件を附議し、詮考委員三名選出を幹事に一任せられん事を希望し、満場の賛成を得、佐藤市長、浦部章三、成瀬初太郎の三氏に詮考委員を委嘱す。三氏別室に於て協議、左の二項を會員に諮りたる處満場一致を以て賛成す。

- 一、上遠野富之助氏を再選する事
 一、當校友會も益隆盛となり會員優に貳百名以上となり尙最近の卒業生及移住者を調査する時は之れ以上に達するを以て校友會則により尙一名の評議員を増加し小山松壽氏を選出する事

當日の附議事項たる來月二十五日開催の母校三十五年祭に對する上京委員及名古屋に於ける祝賀會協議に移り、種々の希望ありたれども結局幹事一任に決して散會す。時に十一時なりき。出席諸氏左の如し。(イロハ順)

- 大伏 節輔 稻田 克巳 石川 成憲
 坂 清之助 堀尾 春雄 奥田 四郎
 岡田 博 大矢 史郎 上遠野富之助
 上遠野 孝 加藤宗太郎 加藤泰次郎
 門田 康記 神谷 亮平 横田深次郎
 田島 一義 竹内 禪控 竹田菅一郎
 高木 常七 永田 嘉市 成瀬初太郎
 村木巳之助 浦部 章三 黒澤 昇治
 山地寅太郎 山本鏡治郎 間瀬才次郎
 松田林太郎 松岡 敬三 伏屋 秀雄
 古島 安二 小山 松壽 小林八百吉
 遠藤 慈精 赤田 盛一 佐藤孝三郎
 佐野 元温 北川 恒哉 三戸 春造
 宮田竹千代 白石 勝彦 平子辨三郎
 杉村 正吉

●名古屋校友會の祝賀會 十月二十七日母校三十五年記念式舉行に付當校友會に於ても祝賀會を開催す。當日朝より雨天のため或は出席者の減少を見るならんと憂ひしも、豫期に反し定刻六時前より陸續として來會。左記三十七名の多數を算し近來の盛會なりき。

●大阪校友會 九月廿二日(日曜)午後一時南區天王寺新世界通天閣下いろはに於て今宮中學校同窓會主催臨時大阪府下教育關係者

川崎造船所校友會 九千噸の大船を三週間で進水せしめ世界のレコードを破るべく目下建造中であり、二千萬圓を投じた葺合製鐵工場も完成して鐵材供給の要もなく、鐵道院の汽罐車を一手に製作する兵庫分工場あり、本社と二分工場と合し職工三萬を算する此大造船所に校友僅に十五名は餘りに心細過ぎるが

終つて上遠野氏先日東京見聞されたる母校の近況及評議員就任の挨拶あり。次いで小山氏の名古屋校友會設立時代の感想談あり。後ち

夫より新入會員の紹介をなし宴を開く。宴酣にして幹事の音頭にて一同都の西北を合唱、學生時代の昔に返りたる感あり。終りて佐藤市長の發聲にて母校の萬歳を三唱乾盃す。之れを一段落として紅裙の舞踊各自の歸郷等百

出時間の経過を知らざる程に十一時過散會す
出席諸氏左の如し。(順序不同(幹事報))

- 鈴木 正俊 宮田竹千代 岡島三木太郎
- 大矢 史郎 山本 且 山本鐵次郎
- 山田 義博 上遠野 孝 間瀬才次郎
- 三戸 春造 上坂 二三 加藤孝太郎
- 鬼頭 俊造 佐藤 祖道 有吉 太郎
- 伏屋 秀雄 泉館家 稔 奇木 郁三
- 白石 勝彦 久野 眞苗 山地寅太郎
- 富澤 充 犬伏 節輔 赤田 盛一
- 黒澤 昇治 水野 銀聖 竹田晋一郎
- 島澤 義忠 門田 康記 永田 嘉市
- 前田雄之助 村木 李鷹 佐藤孝三郎
- 森本金十郎 山下 五陸 水野 申三
- 中村 兵吉

●長崎縣南高早稻田同窓會、長崎縣校友會に
屬する南高來郡出身諸氏は、八月二十五日郡
立島原實科高等女學校新築校舎樓上に會合し
九月五日午後五時より同郡島原村南風樓旅館
に總會を開くこと、會費貳圓を徴收すること
會名は村上武三郎氏の創意により南高早稻田
同窓會と名くることに決し、五時散會したり
出席者は村上武三郎、大峰光彌、草野清、木
下永二、吉田武一郎、清水繁三の諸氏なりき
越えて九月五日午後五時より島原村南風樓に
會合し村上武三郎、清水繁三、進藤行雄、木
下永二、草野清、吉田武一郎、大峰光彌、雁
住又郎、石尾久直、吉田嘉市、上田武敏の十
一氏出席。村上清水の二氏を幹事に推選し、
毎年一回暑中休暇に會合を催すこと、吉田武
一郎、石尾久直、吉田嘉市の三氏を校友に推
薦の件を長崎縣校友會に建議することを決議
し、晚餐を俱にし十時散會したり。(會幹報)

●静岡校友會 同會は十一月十七日母校より

平沼學長講師高橋清吾氏を招請して午後五時
より市内友亭に於いて大會を開催したるが
中尾幹事開會辭に次いで平沼學長高橋講師の
演説あり。後ち會員順次に卒業年度並に感想
を述べ、盛會裡に午後十時閉會せり。出席は
主賓平沼學長高橋講師、同行難波參助會主任
日章信託會長田中四郎左衛門氏の外左の諸氏
なりき。

- 原木吉太郎 河瀬 敏雄 青地雄太郎
- 伏見 忠七 中野 龍彦 山本多三郎
- 齋藤 峯平 室伏 寛 飯塚 虎夫
- 中山 均 神尾 一惠 山口 民策
- 伴野 賢造 横田保兵衛 中尾榮次郎
- 榛葉 嘉作 佐々木誠吉 山本 邦助
- 國澤 記春
- 尚ほ開會席上に於て幹事の改選ありたる所、
左の諸氏當選せり。
- 室伏 寛 神尾 一惠 山口 民策
- 河瀬 敏男 飯塚 虎夫 伊藤 友雄
- 中山 均

●長崎縣校友會の秀島英五郎氏送別、校友秀
島英五郎氏の今度東京三菱本社へ榮轉せらる
るに就き之れが送別宴を十一月十六日午後六
時半より市内西濱町精洋軒に於て開催す。
同氏は母校明治廿一年英語科の出身にして、
卒業後は直に當市三菱造船株式會社の前身に
して未だ工務所と稱せし頃入社せられ、以來
卅年數ヶ月の長き歳月の勤務者として同所切
つての活字引と稱せらる。殊に英文學に通じ
又會話に堪能にして目下庶務課長の椅子を占
めらる。昨年舉げられて市會議員の要職にあ
り。
會するもの皆同氏との分袂を惜む同好の情溢
れ、席上幹事松尾(榮)氏の開會の辭に次ぎ、

代議士校友小川寅六氏の同氏との訣別に對す
る熱情ある演説あり。幹事松尾長市氏又同氏
の友情厚く且つ後輩指導に盡力せられしこと
を謝し、一同起立同氏の健康を祝す。歡談盡
きす十一時過盛會裡に散會せり。出席は主賓
秀島英五郎氏の外左の諸氏なりき。

- 小川 寅六 阪田 成三 中海郎知幾
- 田中 直治 伊東 馨根 久保 義美
- 山口 政雄 岡安 理平 深見 五郎
- 稻垣 太吉 山本 八龍 毛利 廣
- 藤 建輔 中島 復 中村賢之助
- 松尾榮三郎 松尾 長市

●新潟縣校友大會
新潟縣校友大會は母校理事平沼、徳永兩博士
の出張臨席を請ひ、去七月二十九日同縣村上
町に於て大會を開催せり。平沼、徳永兩博
士及鈴木千代吉三氏は同二十八日夜上野驛發
岩越線にて二十九日午前十時半新津驛に着、
新潟其他各地校友の出迎を受け、又途中新發
田に於いては同地校友の出迎を受け、中條驛
にて村上町より出迎はれたる佐藤伊助、板倉
友三郎兩氏と同乘十二時三十分村上驛著。直
ちに瀨波三島屋に投宿。少憩の後村上町可能
登新樓に臨まる。會は午後四時開會、出席は
兩博士の外左記三十六名にして板倉友三郎氏
開會の辭を述べ、座長に松井郡治氏を推し、
左の事項を議決す。
一、大隈總長に左の電文を發する事
總長閣下の御健康を祝す

- 一、推選校友の件
- 一、評議員一名改選の件
- 一、次回の開催地を佐渡郡相川町と定む
- 一、次回の開催地の状況報告あり。後ち村
校教授樋口清策氏、故吉田博士奨學資金募集
の件に付述ぶる所あり。次いで松川第一郎氏
の挨拶ありて開宴。一同胸襟を開きて獻酬の
間に歡談を恣にし、九時半散會せり。出席諸
氏左の如し。

- 平沼 博士 徳永 博士 鈴木千代吉
- 樋口 清策 丘 寅一郎 上野喜永次
- 伊藤 成章 丹後 康平 渡邊 廣一
- 松川第四郎 荒川 謙二 川上 法勳
- 石塚 三郎 松井 郡治 齋藤庫四郎
- 松本 弘 渡邊寛一郎 佐藤徳三郎
- 眞沼田鶴榮 佐藤 伊助 板垣友次郎
- 佐藤 卯助 佐藤 邦藏 佐藤 春三
- 高野 宏策 高森新次郎 廣島 一耶
- 石山 有作 笹川加津志 高橋 幾彦
- 高橋 謙三 進藤 喜一 舟崎 仁一
- 渡邊清次郎 吉川 大介 佐藤 知信

▲講演會 校友大會の翌三十日午後一時より
村上小學校に於いて開催す。郡教育會と校友
會との主催に係る。村上町長澤田要人氏開會
の辭に次ぎ鈴木千代吉氏「國土の生産能率と
肥料的革命」。徳永博士「地質學上より觀察せ
る村上地方」。平沼博士「世界の風雲と日本」の
順序にて講演ありたるが、聴衆三百餘名非常
の盛會裡に五時半閉會せり。
▲慰勞會 講演會終了後午後六時より同町吉
源樓に於て講師一行の慰勞會を開く。席上澤
田村上町長の挨拶に次いで平沼、徳永兩博士の
答辭演説あり。主賓十二分の歡を盡して散會
せしは九時半。出席は主賓兩博士の外左の諸

氏なりき。

福原藤治(部長) 金澤來藏(村上中學校長)

澤田要人(村上町長) 萩原謙次郎(村上本町長)

中山 翁藏 解良 利貞 佐藤 伊助

板垣友次郎 百武長兵衛 益田藤次郎

長郷 修藏 益田基次郎 中村 善人

井上 宗介 伊與部小助 佐藤 勇藏

佐藤幸七郎 佐藤 邦藏 石田與平治

宮尾 又吉 佐藤茂三郎 佐藤 勿助

矢部仁三郎 須具 作吉 窪田 圭一

齋藤 忠衛 杉森正太郎(判事) 細野 見男

小田長四郎 益田榮太郎 大鹽 忠順

宮都宮十郎 鈴木源次郎 和田 勉

具沼田鶴榮 松川第四郎 近 寅一郎

佐藤德三郎 松井 郡治 佐藤 知信

●群馬校友聯合祝賀會 母校創立三十五周年記念のため上毛校友會にては母校群馬縣人會と提携し、十月三十一日の天長の佳節を

とし同日午後五時より前橋市曲輪町赤城館に於て校友學生聯合の大祝賀會を開催す。此日

流行の感冒に襲はれ校友學生俱に缺席者續出せるも、岡田群馬縣人會副會長學生團と俱に

参加し、開會前意氣冲天の概あり。學生側は校友の間に點綴して環坐するや、篠原校友會

幹事開會の挨拶を述べ、一巡各自名乗を揚げ、

亞で校友側は金庭本縣評議員、學生側は小川縣人會幹事立つて會務報告を了して開宴。酒

三行窓外の暮色漸く迫り、雙頬亦た紅潮を漲らす頃ほひ、松澤縣議を首め校友學生交々希

望を吐露するあり、所感を纏述するあり。談論

風發の裡にワセダニヤンの一大家族互に把臂

交離母校の隆昌を祝福し、學生團を中心とし

て校歌都の西北を高唱し、和氣怡々として九

時半散會せるが、當日出席者次の如し。

校友側

水槍三四郎 金庭 友八 松澤 知司

松田謹一郎 伊藤 金七 清水留三郎

平井 晚村 後藤 藤平 且尾 秀辰

篠原 秀吉 吉田吉太郎 佐藤 完重

齋藤友次郎 (縁故者)

栗田 秀一 中野藤吉郎

岡田和四郎(早稻田大學群馬縣人會副會長)

學生側

岩井、治郎 小川信太郎 小林初三郎

新井九二夫 白石 誠志 八木 省三

大村 直英 金井 勇 金井 眞祐

小島敬七郎 淺見 登郎 住谷啓三郎

竹内 榮次 田中 直江 秋山 傳之

松村 英夫 鈴木南海之介 藤井 又雄

木暮 芳真 森村 敏夫

●岐阜校友會 十一月二十四日午前十時より

岐阜市内徳文に於て例會を開催す。松岡會長

より母校の近況に付詳細報告あり。尙母校誼

持金に付協議をなし、一同胸襟を開き歡を盡

して四時解散す。參會者左の諸氏。

松岡勝太郎 片尾 鐵男 白木 甚吉

大山 利一 後藤駒次郎 宮川貞次郎

成瀬 清 大館 憲章 船渡 佐輔

中島 喜八

尙ほ役員改選を行ひし所左之諸氏當選せり。

評議員 松岡勝太郎

會長 片尾 鐵男

幹事 大山利一 日比 東 後藤駒次郎

可知 修一 白木 甚吉 山田龜右衛門

永田 正孝

●米子校友會の再興 八月十日土曜日午後六

時より米子町明月別荘に於て中絶せる同會を

再興し、兼ねて第一回校友會を開く。定刻前

より續々來會。幹事開會の辭に始まり、清談

歡語盡きず。宴酣にして校歌を合唱し、午後

十時閉會す。當日出席諸氏左の如し。

堀安萬喜太 坂口 武市 稻田 元長

大谷 某 田中 篤 諸遊 康英

今井 某 江口 某 (以上卒業生)

高濱 剛彦 油木兵吉郎 柳谷 保一

(以上在學生)

●鹿兒島校友會 同會にては夏季休暇歸省中

の在學生と連絡を取るの意を以て夏季校友會

を八月二十六日午後六時より鶴鳴館本店に於

て開催。席定まるや鹽田委員開會の挨拶を述

べ、日野辰次、田中誠之助兩氏より同會へ基金

寄附の件並に會務を報告し、厚地嗣廣氏の演

說田代商業校教諭の支那視察談、在學生山下

氏の母校に於ける本縣學生校友會近況報告あ

り後ち直ちに開宴。歡酬盛んに歡談湧き、宴酣

にして校歌を高唱し豪快を遣りて退散せるが

盛會なりき。當夜出席者左の如し。(會幹報)

日野 辰次 白尾寅千代 厚地 嗣廣

堀添 壯吉 岡山 秀平 田代 通輝

黒岩 正義 村 源太郎 前田 久盛

野中 新藏 肥田 實 市來 政弘

竹之内靜治 上野 秀麿 松元 清二

彌田 武彦 (以下在學生) 萩原 秋彦

青柳 愛輔 本田 親男 山下 宗雄

石塚 彦一

●釧路校友送別會 校友釧路運輸事務所長石

田義太郎君神戶轉任に就き、九月三日午後七

時喜望樓に於て送別の宴を開く。酒間手踊隱

藝等に感興を惹き主客歡を盡して相變らずの

「都の西北」を高唱して散會せり。當夜の出席

者左の如し。

石田義太郎 保田友太郎 磯部 環

福宮 貫二 大政 正雄 中川 安二

菊池 三郎

●釧路校友歡迎會 北海道遊説の目的を以て

來釧せられたる加藤憲政會總裁一行の校友代

議士關和知前代議士森田勇次郎兩氏を九月十

三日午前停車場に迎ふ。一行は正午公會堂に

於ける釧路町發起の一行歡迎午餐會に臨み、

別に兩校友の爲めに室を設けて稻門の小宴を

張る。席上交々時局を談じ言論風發、頗る痛

快を極む。出席諸氏左の如し。

主賓

關 和知 森田勇次郎

校友

保田友太郎 大政 正雄 福本 猿三

鈴木 宗竹 宮 信一 菊池 三郎

●大連校友の庭球會

歡迎會

七月六日當地校友一同は折柄來連中の庭球部

選手一行を迎へ、其の歡迎會を西公園西園亭

に開催せり。定刻七時迄には高杉教授を初め

一行十八名及び校友三十餘名續々と參集。席

定まるや、幹事長五泉賢三氏開會の辭に次

いで歡迎の挨拶あり。之に對して高杉教授の

謝辭あり。やがて酒宴に移り、杯一杯と重ぬ

るに從ひ學生時代の昔に還り、痛論快談時の

移るを知らず。宴半にして一同紀念寫眞を撮

る。最後は例によりて元氣ある都の西北のオ

ーゲストラによりて宴を閉づ。時恰も午後十

時近來になき盛會なりき。當夜の出席は高杉

教授を始め一行の外左の如し。(會幹報)

●五泉賢三(辯護士) ●永田善三郎(嶺山樂) ●岡村又市(日清生命) ●花岡收造(日本賣藥) ●渡邊巖(大連經濟) ●寺内清次(都督府) ●中村敬三(三星洋行) ●宇野即成(大蓮寺) ●李田厚隆(滿鐵) ●大井憲昭(同) ●堤淨祐(同) ●松浦開治(同) ●加藤達二(同) ●德島幸二郎(同) ●加東秋二郎(同) ●井上芳雄(同) ●岸一郎(同) ●大森純一郎(同) ●平田五郎(同) ●若林右三(同) ●木村與一郎(同) ●三好幸三郎(同) ●堀洋三(大倉組) ●宮谷公雄(遠藤裕太商店) ●山村五郎(三井) ●安野誠信(紀阪洋行) ●小栗牛平(日清製油) ●佐野忠(三越) ●張金傑(中國銀行) ●廣野猛逸(大阪商船) ●川久保浩(増田) ●佐賀七郎(同)

上海校友會

支那中部の富源地の門戸に位置し、商工殷盛なる當地の事とて常に來訪通過の校友多く、母校發展の勢と校友の活動は轉た校運の前途を思はしめ、實に心躍りて祝福せざるを得ざる有様なるが、今回偶々校友にして東亞同文會幹事代議士柏原文太郎氏來りて滯滬するあり。また支那歴史研究のため廣く内地の史蹟を跋渉しつゝ、ありし講師清水泰次氏の來るあり。此處に不圖も二校友を同時に迎ふるの好機を得たるを以て、歓迎を兼ねて、支那秋秋節、月清らかなる九月十九日支那料理店一品香樓上に校友會を開催せり。然し仲秋節なると事突然なりしため不參の人ありしも、多忙の時間を割きて來會せる人はなつかしき母校敬慕の空氣と校友情誼の香に接して既に和氣霽々とし、歡談笑聲場を賑はし、或は久闊を叙して昔日の想出に餘念なく、或は遙に絃歌を聴きつゝ、月をのぞきつゝ、料理を漁れば、

異國味の中に同窓味を味ふことの印象更に強きを感じたり。宴半ばにして、幹事清水湘平氏拍手と共に立ち、粗糲の長旅の苦を勞ふに足らざるを謝し、更に母校の發展に照して校友の責任を語り、以て懇切なる歡迎の挨拶をなし、之に對し醉はざる前にと柏原氏徐ろに立ち、溫言を以て自らを豫言者と謙讓し、眞のキリストは諸君に俟つと、ワセダニアンの此大陸に活動する上に激勵の言葉あり。また支那通の先輩として種々警告する處あり。啓發する所尠からず。次に清水講師の懇篤なる謝辭あり。一品香なる樓名に擬し巧妙なる比喻を以て學究室に淺くまた至難なれば各自よりその薰香高き誘導の言を望むとの氏の學者肌を偲はしむる者ありたり。すでに老酒進み皿代るにつけ、感興益熾にして其處此處に早稲田の色彩溢ると共に一座時の移るを忘る宴終りても尙元氣の一團あり。老先輩森茂氏を圍みて一同の氣焔誠に虹の如し。そして有らん限りの聲にて『都の西北』の校歌を合唱し或は早稲田健兒の意氣を獅子吼し、放歌亂舞する有様蓋し近來になき痛快なる盛況なりき只仲秋節と急遽の催しのため多數の校友に差支へあり出席者少かりしは遺憾とする處なりき。今氏名を擧ぐれば主賓柏原文太郎、清水泰次兩氏の外左の如し。(小林報)

- 森茂(同文書院教頭) ●鶴原梅次郎(日本棉花)
- 清水湘平(増田) ●清水金八(日華紡績) ●池田耕作(鈴木)
- 美土路昌(大朝記者) ●岸至(上海日々記者)
- 中村磯(服部) ●須田孝二(茂木)
- 田中淳一(増田) ●宇都龍雄(増田) ●大和田松(増田) ●小林重平(増田)

米國ハーバード大學 在籍者校友會

母校出身者中從來ハーバード大學に於て研究せられたる士の尠なからざるは疑なきも、今年度に至り頓に其數を増加し來り、目下其の(Graduate School)に籍を録するもの左の六名を算するに至りたるは有力に我國運の隆昌と母校の發展とを語る一つのパロメーターと見るを得べく、衷心慶賀の至りに堪えない。

- (専攻科目)
- 經濟學 藤本 莊民
 - 電氣學 理工科留學生 黒川兼三郎
 - 金融經濟 商科留學生 小林 新
 - 政治哲學 元 教 授 北 吟吉
 - 探礦冶金學 鹽澤 正一
 - 哲學及文學 末 國章

但し右の内黒川兼三郎、鹽澤正一の二氏はハーバード大學と異名同體なる Massachusetts Institute of Technology に於て研鑽に従事して居られる。

兎角平素は研究に逐はれて互に話し會ふ機會も乏しいものから、校庭に紅葉の時雨する十月二十日午後五時よりボストン市唯一の日本料理店田中富士館に於て第一回の會合が企てられた。

校友會とは云ひ條孰れも修業中の事ではあり風俗習慣の異なる社會に棲める事とて内地に於けるそれとは頗る趣きが違ひ、西洋風に椅子に腰掛けながら牛肉のすき焼と栗飯とに舌鼓を打ちつゝ、大に語ると云ふ純潔にも淡白なる催しである。健康を祝する爲めに麥酒が抜かれたが、北氏の如きは口にせられない。氏は日本に於て斯道にても豪の者だつた相だが留

學中は斷然禁煙禁酒を執行せらるゝ由、其勇猛奮進と敬服するに足る。

形式は斯く手輕なるも内容に於ては頗る充實した會合である。同一卓を圍んで六人が互に胸襟を開いて語る所研究上の題目に始まり、話草はそれからそれへと喝くるを知らぬ。秋の長夜の闌くるも知らず、戸外を閉ざす細雨をも覺えず、同胞たり校友たりと云ふ氣分よりも寧ろ互に兄弟の如き感を抱きながら十時過會を閉じた。(小林新報)

●新嘉坡より、 當南洋地方に於ける早稻田大學校友の發展現況に就ては、未だ一度も通信仕りたる事之れなきも邦人經營の護樹栽培盛なると歐洲戰亂の餘影にて邦商の大發展に連れて、我母校校友の南方雄飛の數は愈々益々其數を増し近來は新嘉坡を中心として其數三十餘名に達し中々の勢力を形造るに至りぬ

殊に護樹栽培會社の支配人たるもの多く新嘉坡に於ける日本人栽培業者協會の常置委員十名中約半數は我校友なるの有様なり

當地に於ける校友會は大正二年に創立され當時毎月校友相集りて會合を催し居たるが近來其數を増すに至りて毎月の開會は餘りに頻繁に過ぎるの嫌ありとて時々機を見て會合しつゝあるが毎會合毎に中々の盛況なり當地に於ける校友の重なるものを摘示せんに

- 日本人栽培業者協會委員長
- 三五公司總支配人 木村 大介
- 同上常置委員 日東護謨總支配人 後藤 吉武
- 同上 古河護謨支配人 酒井鶴之助
- 此外護謨園方面にては南亞公司常務取締役井上權三△同園トロンシガイ主任居城新三郎船谷丑松△ホテルネオ護謨事務取締役兼南洋護謨監査役遠藤隆夫△日本護謨支配人矢野義夫 △馬來栽培護謨支配人

山田政記△マロイ護謨支配人佐藤勇三△三五公司
パトバハ、スリカデン第四種林地主牧野紫郎等の諸
友あり何れも千英反以上の大護謨園の支配人にして
一廉の勢力あり。此外園員として従業せるもの亦
十名に垂々とす
又新嘉坡に於ける實業界或は各種公共事業に従事
して活躍せるもの少からず其重なるものは

新嘉坡日本人會理事
南洋日日新聞社長
古藤 秀三
日東護謨總支配人
後藤 吉武

同上
日本實業會社支店長
竹内 精一

右の外領事館の首席書記生に武田圓治△南洋日日
新聞社支配人手塚貞吉△日本郵船會社新嘉坡支店
次席朝賀忠勝等ある外南洋日日の記者に二名、三菱
支店に一名、増田の支店に二名、山下汽船の支店に
一名、大坂商船支店に一名の各従業員ありて是れ又
中々の勢力なり
而も近來益々各種の事業發展に連れ其數を増加し
つゝあれば遠からず其數五十を數ふるに至るべし
目下幹事は創立以來引續き古藤秀三相勤め居れり
(會社報)

●大阪同攻會消息 第四十三回例會を七月十
四日日清生命支社内に開催。左記講演並に討
論あり盛會。
一、河南大和鐵道自轉車旅行談 岡本由松君
(歴史的文學的觀察) 和田和一郎君
一、憲法政治の回顧

討論「夏期休暇廢止の可否」
●第二十回清談會を一月二十一日夜開催。左
記報告ありたる後、歡談に時を移し、十一時
散會。
一、鹽專賣並に製鹽法 藝井秀太郎君
▲第四十四回例會を八月十一日午後六時より

於日清生命開催。出席者十餘名。

一、俳句に就いて 鍵山容洋君
一、戰費に就いて 小原是馨君

右終りて『海か山か』に付て各會員の討論的感
想談あり。十一時閉會。

●第二十一回清談會を八月二十四日午後七時
より開會。出席者六名。校友國澤君の關東見
學旅行並に母校訪問談及入營すべき米田君の
自家思想變遷に關する感想談あり。興多かり
き。

▲第四十回例會を九月八日午後六時日清生命
支社内に開き、左記の如き有益なる演説あり。
十一時散會せり。

一經濟時感 小原 是馨君
一關東見學旅行談 國澤 昭光君
一資頭盧の由來 中島松次郎君
右終りて食料問題に對する會員の感想談あり
互に益する所ありたり。

校友動靜

校友諸氏の動靜左の如し。

- 野崎善雄(三九政) 中央商會社長として鐵、食料罐詰及貿易業を營む(下谷區上根岸八九)
- 池宮末吉(七政) 外務大臣官房電信課勤務を免じ浦潮斯德在勤を命ぜらる(浦潮斯德市日本總領事館)
- 松井周次(六政) 大阪朝日新聞社を辭す(大阪市西區土佐堀通三ノ一四永見方)
- 原 義雄(六政) 三井物産株式會社本社調査課に轉勤
- 野瀬靜(一四政) 小倉市大阪町七丁目岸本海運部出張所に轉勤
- 天羽靜(一六政) 神戸市東町白十三番館日本自動車株式會社神戸出張所主任となる

●洪寅鉞(三〇政) 朝鮮成興面中里北鮮商業銀行支配人となる

●仁村篤司(四四政) 第百銀行大阪支店詰(大阪市南區天王寺小宮町五三七四)

●中村新四郎(五政) 府下金町三製紙株式會社に轉勤(同所三菱社員合宿所内)

●清野利吉(四〇政) 京橋區南八丁堀一ノ一九、東洋調帶株式會社に轉勤

●岸 常吉(二政) 米國コロンビヤ大學に入學

●小幡 暹(三九政) 大阪市北區曾根崎新地三ノ五三、豐國火災保險株式會社に轉勤(兵庫縣西宮町西波止海岸通稱三階方)

●小野 猛(五政) 横濱共同貿易商會を辭し千葉縣東葛飾郡市川町四五〇に於て養豚堆肥製造業に従事

●柿沼邦司(四〇政) 藤田鐵業株式會社小坂鐵山事務所勤務(秋田縣小坂鐵山古館二三社宅内)

●宮田竹千代(四政) 名古屋市外御器所村東海電極製造株式會社に入る(愛知縣西春日井郡庄内村)

●小林正氣(七政) 中澤商事株式會社貿易部に轉勤

●小池輝男(六政) 一年志願兵として第一師團歩兵第一聯隊に入營

●埴原正直(三〇英政) 外務省通商局長たりし氏は同政務局長に榮轉す

●奧 忠彦(二七英政) 日本銀行小樽支店長に轉任(小樽區富岡町二丁目)

●佐々木 盛(四三政) 神戸川崎造船所勤務

●渡部英三郎(七政) 明治生命保險株式會社勤務(本郷菊坂町九四横山方)

●新里音三郎(七政) 神戸市榮町一丁目横濱正金銀行神戸支店勤務

●漆原久雄(七政) 中外商業新報社に入る(市外更久保二、刀根方)

●大橋 榮(七政) 本大學研究科在學(牛込新小川町二五稻田方)

●赤羽明治(六政) 北見國野付手町北見索道製材株式會社創立事務所に轉勤

●大橋弘之助(七政) 三木商店に入る

●山本榮太郎(七政) 同上

●河本信幸(五政) 大阪市西區阿波座下通二ノ一、共三洋行に轉勤

●遠藤隆夫(三〇政) ホルネオ護謨株式會社常務取締役に就任(新嘉坡ネビーホテル)

●遠藤民夫(六政) ホルネオ護謨株式會社勤務(四谷區大番町七七)

●正山三郎(七政) 大阪市西區靱南通一ノ一〇日清生命保險株式會社大阪支社に轉勤

●谷 國彦(三三英政) 荏原郡大崎町桐ヶ谷三七〇東洋加工紙株式會社に轉勤

●池田可夫(四三政) 東京亞鉛電鍍株式會社常務取締役に就任(市外千駄ヶ谷町原宿二〇三)

●笹澤三善(四政) 東京日日新聞社に轉す(本郷區駒込追分町八八)

●浦井道太郎(七政) 日本銀行員(牛込區早稻田南町三九近藤方)

●兎耳山 毅(七政) 京橋日華生命保險株式會社調査課勤務(赤坂區青山北町五ノ二三新井方)

●中澤善右衛門(七政) 白木屋呉服店に入る(市外雜司ヶ谷四四三)

●道盛吉之助(七政) 神戸市榮町四丁目増田貿易株式會社神戸支店勤務(同市花隈町五四四ノ一増田合宿所内)

●佐藤猪三郎(四一政) 千葉縣屬千葉町寒川新宿一(二八四)

●二見仙平(四〇政) 横濱市山下町二二四、小野貿易株式會社に轉勤(同市青木反町八三〇)

●篠田信二(三九政) 支那青島馬關通一三、膠州鹽業公司勤務

●尾立維昌(5政) 臺灣新竹廳苗栗縣寶田石油株式會社出張所に轉勤

●金山音治(三九大政) 京都市株式會社京都銀行に轉勤

●村田松太郎(6大政) 大阪市北區中之島二ノ一三株式會社東洋工業社大阪出張所に轉勤

●赤壁德三郎(6大政) 丸ノ内吳服橋際深瀬商會營業部勤務

●絹川太一(二七英政) 金城標絲織物株式會社監査役、名古屋紡績株式會社支配人(名古屋市東區撞木町一ノ二)

●露崎 薰(三九政) 東京信託株式會社に轉勤(小石川區雜司ヶ谷町九二)

●岸本次吉(四五五大政) 水嶋商會に轉勤

●佐藤元郎(四五五大政) 株式會社守谷商會に轉勤

●中楚俊三(四五五大政) 歐米漫遊の途に上る

●村越義衛(四五五大政) 日本國債株式會社に轉勤

●大戶恩勝(四五五大政) 青島新報主筆となる

●清田左京(四五五大政) 大正貿易商會に入る

●一圓五郎(四五五大政) 日本國債株式會社勤務

●田村久作(四五五大政) 久原礦業會社勤務

●阿由業正(四五五大政) 日本國債株式會社專務取締役となる(京橋區三十間堀二丁目)

●本多賢三(四五五大政) 東洋汽船會社藥港支店員となる

●神澤武次(6法) 明治興信所調査課勤務(市外戸塚町字下戸塚四五二)

●野口 綠(4法) 沖繩炭礦株式會社に入る(沖繩縣八重山郡西表)

●江上 助(7法) 本大學研究科在學(半込區榎町一ノ稻葉方)

●古谷 齊(7大政) 臺灣銀行員(臺灣臺北龍口庄ノ十二番戶)

●松岡正之(7大政) 神戸市榮町三丁目湯淺貿易株式會社勤務(同市葺合町二一五一ノ一佃榮次郎方)

●淺見陽一(三七七法) 大阪市西區泉尾町三五九新田建築事務所勤務

●飛田忠順(2法) 讀賣新聞記者(半込區辨天町二)

●小山 晋(四一法) 大阪市北區南森町一一に於いて辯護士開始

●石田義太郎(三九大政) 西部鐵道管理局福知山運轉事務所勤務

●黒木 太郎(三九大政) 九州電燈鐵道株式會社主事、陸軍三等主計(福岡市大名町四丁目)

●田沼武兵(7大政) 東亞通商會社大阪支店に入る

●若杉右三(6法) 哈爾濱埠頭區ボロヤ街合資會社加藤洋行出張所に轉勤

●榊原藤治郎(三四行) 沼津驛貨物掛主任に轉勤(静岡縣駿東郡沼津町城内字篠内五百一番地ノ十ノ七)

●村岡吉康(二二行) 日本電力株式會社監査役、佐原電燈株式會社取締役

●小田原 勇(三九大政) 名古屋市東區宮町二丁目株式會社不動貯金銀行名古屋支店 轉勤

●井原清一(7大政) 日本郵船株式會社營業部船客業務 半込區市ヶ谷河田町九

●島貫泰次郎(5大政) 京津日日新聞記者となる(支那北京東城五老胡同)

●如 利平(4大政) 熊本縣立中學講義教諭を辭し岡山縣郡蓮部妹尾町箕島二一六四に居住

●速水三郎(3大文) 富山縣立富山中學校教諭に轉任

●花園兼定(四三大文) 從來のヘラルドオウエンを客員たるに止め中外新論編輯主任となる(市外大井町瀧生子四五四五)

●小川敏也(7大文) 鹿兒島縣第二中學校教諭に任ぜらる(同校内)

●大如達雄(四四大文) 山形縣立酒田高等女學校に轉任

●多胡淳(四五大文) 國際通信社に轉任

●金子勇司(四一大商) 新潟縣酸株式會社經理課主事に轉勤(新潟市下大川前通二ノ丁皆川方)

●沖 作治(四五大商) 神戸市加納町六ノ一五、東神倉庫株式會社神戸支店に轉勤

●杉村正吉(5大商) 神戸市磯上通八ノ七森村商事株式會社支店に轉勤

●長沼正文(5大商) 磯村合名會社社員(小石川區高田老松町三九)

●市川次郎(5大商) 麴町區八重洲町一ノ一久原 業株式會社實買課に轉勤

●栗口正治(6大商) 横濱市辨天通二ノ三三木村合名會社直轄部勤務

●田村 蟠(5大商) 南洋東方ロンドン群島ボナヘ島南洋鐵維工業株式會社ボナヘ支店轉勤

●十河正平(4大商) 大阪船船株式會社專務取締役、三星商店主(大阪市南區勝山通二ノ五九〇三)

●佐藤清吉(四四大商) 朝鮮郵船株式會社本浦出張所主任(全羅南道木浦府朝鮮木浦出張員事務所内)

●山本一郎(四四大商) 大阪市堂島株式會社川北電氣企業社勤務(大阪府天下茶屋聖天阪)

●田坂茂忠(7大商) カレツヤ、オア、ハワイに入學(60 T. Ozawa, P.O. Box 362, Honolulu, H.I.)

●山下健六(7大商) 栃木商會社を辭す(福岡縣)

●八幡市尾倉西本町六丁目青木方

●塚越虎藏(7大商) 大阪市日本棉花株式會社に入る(同市北區曾根崎中一丁目百四十一番地酒井屋方)

●安谷屋繁(7大商) 日本郵船株式會社東京支店外航輸出課勤務

●上坂西藏(7大商) 増田貿易株式會社雜貨部勤務(横濱市石川仲町一ノ三一本多方)

●水谷淳三郎(7大商) 三井物産會社に入る(半込區早稲田南町四吉井方)

●竹内四郎(3大商) 南滿洲鐵道株式會社沙河口工場會計課に入る

●内藤安城(6大商) 米國に渡航ノースカロリナ州大學に入る(60 University of North Carolina, Chapel Hill North Carolina, U. S. A.)

●八田喜三(四五大商) 内田商事株式會社に轉勤

●大阪支店勤務(大阪市外住吉公園濱口三九八)

●野村長太郎(2大商) 京橋區築地二ノ二〇株式會社橋本店貿易部勤務(府下淀橋町字柏本五〇)

●關 松朗(4大商) 芝區本芝入横町一番地株式會社池貝鐵工所機械製作部材料課に轉勤(横濱市西戶部町一三六二)

●伊藤太之(四〇大商) 支那上海大阪商船株式會社上海支店に轉勤

●圓城寺松一(5大商) 麴町區八重洲町古河鐵業株式會社に轉勤

●松原憲一(四五大商) 麴町區大手町一ノ一東京瓦斯電氣工業株式會社營業部に轉勤(府下中野町字小下二三九)

●大岡健藏(6大商) 東神倉庫株式會社大阪支店に轉勤(大阪府東成郡天王寺村聖天坂一四八〇鈴木方)

●神田健一(6大商) 名古屋市外守山歩兵第三十三聯隊補充隊第三中隊に轉勤(一年志願兵)

●早瀬太三(3大商) 日本橋區藥研町一十九早瀬

商店東京支店諸

●横山信男(四二大商) 三井物産株式會社東京本店勤務(豐多摩郡青山北町七ノ九)

●菅沼信一(四一大商) 關領スマトラ島メダン市シラトロ栽培株式會社勤務

●安水次郎(六 大商) 福岡縣嘉穂郡稻築村三井鳴生礦業所機械課に轉勤

●難波英人(四四大商) 神戸三宮町三丁目在貿易南京都大澤商會神戸支店に轉勤(神戸市宮本通四丁目四十六番屋敷)

●木原繁太郎(四一大商) 府下高田村學習院下澤藤電氣工業所營業部に轉勤

●池田常道(四三大商) 神戸市相生橋西詰大阪毎日新聞神戸支局に轉任(同市野崎通二ノ二)

●渡邊八郎(五 大商) 淺草區須賀町一、株式會社倉庫商會に轉勤

●清水光義(四 大商) 南滿洲鐵道株式會社安東地方事務所員、安東實業補習學校講師(南滿洲安東縣九番通五號ノ一)

●下田基治(七 大商) 日本高速度鋼株式會社調度課勤務(府下荏原郡大崎町字上大崎四谷二五二)

●立花盛枝(七 大商) 橫須賀港務部海軍特務船三地丸 轉勤

●式 正治(五 大商) 函館區末廣町二五、函館貿易株式會社に轉勤

●廣戸武吉(五 大商) 日本特殊鋼工業株式會社に轉勤(府下戸塚町下戸塚二九三松下方)

●角谷伊藏(七 大商) 瓜哇スラバヤに渡航 (Solo Saries Hotel, Sourabaya, Java)

●定近俊一(四一大商) 靜岡縣田方郡錦田村日本煉乳株式會社錦田工場に轉勤

●藤田實治(四四大商) 東京モスリン紡織株式會社に轉勤

●小林憲年(三 大商) 九州炭礦汽船會社を辭し鳥取市本町二ノ一〇に歸住

●柿本山太郎(六 大商) 滿洲哈爾濱實業區スクラ

ズナヤ街東亞商業株式會社勤務

●能勢正己(六 大商) 大阪市北區堂島濱通貳丁目大阪汽船信託株式會社に轉勤(神戸市兵庫六番町一丁目三十五番屋敷)

●本橋儀三郎(五 大商) 天津日本租界海光寺東亞櫻草株式會社天津製造所に轉勤

●田中達雅(六 大商) 日本郵船小樽支店北見丸乘組

●島崎清次郎(四二大商) 大阪市東區備後町四ノ三〇淺野物産株式會社大阪支店に入る

●田邊一雄(三 理工) 神奈川縣足柄下郡湯本村小田原電鐵三板橋發電所に轉勤

●猪野令宜(七 理工) 橫濱護謄製造株式會社勤務(橫濱市淺間町七二九芳賀方)

●鈴木竹治(五 理工) 帝國大學航空研究所勤務(本郷區東片町九越知方)

●名川忠兵衛(六 理工) 靜岡縣富士郡入山瀨富士製紙株式會社富士第一工場に轉勤

●舟崎由之(六 理工) 市外大島町六丁目東京鋼材株式會社勤務(牛込區早稲田鶴卷町二二二)

●助川貞利(五 理工) 札幌電氣軌道株式會社技師(札幌區南三條西七丁目五番地)

●熊田茂次(四 理工) 京橋區南傳馬町一ノ一七東洋工業株式會社(牛込區櫻町五番地ノ五)

●大隅菊次郎(七 理工) 本大學電氣科在勤(市外高田村高田三四四山本忠興方)

●三根二三(四 理工) 大阪市西區西九條上ノ町二一〇合資會社東亞鐵工所勤務(同會社内)

●坂本信憲(七 理工) 麴町區大手町東京瓦斯電氣工業株式會社勤務

●小林楠司(同上) 同上

●富永貫一(五 理工) 福岡縣遠賀郡戸畑町東洋製鐵株式會社戸畑事務所に轉勤

●石倉敏良(二 理工) 麴町區大手町東京瓦斯電氣工業株式會社に轉勤

●西田順一(三 理工) 電機水力機工事に従事(小石川區關口町一四〇)

●風井晋一(六 國) 日本汽船株式會社笠戶造船所に入る(山口縣都濃郡末武北村一五〇七)

●鈴木三之助(五 英) 橫濱市山下町四六太平洋洋貿易株式會社勤務(同市福島町二福壽館内)

●高橋一人(四 國) 廣島市廣陵中學校教諭

●加藤覺隆(二 國) 埼玉中學校教諭(埼玉縣北埼玉郡不動岡村總願寺内)

●柴山龍之平(七 數) 長崎縣立壹岐中學校在勤

●安田宇佐男(二 國) 日本橋區北新堀町一六日本醸造株式會社に轉勤

●加藤吉彦(二 英) 香川県立丸龜中學校に轉任(丸龜市濱町)

●八木英三(四二 歷) 神田淡路町東京開成中學校在勤

●片山 豐(四〇 國) 奈良縣立五條中學校教諭に轉任

●野中新平(七 國) 富山縣高岡市立商業學校在勤

●川口興道(七 英) 東京興信所外國課勤務(牛込區四五軒町二〇橋本方)

●關 善實(四〇 歷) 支那上海日本總領事館外務書記生

●室岡金藏(四〇 英) 愛知縣岡崎市縣立第二中學校に轉任(同市福壽一一九)

●澁谷丈夫(七 國) 長崎縣立島原中學校在勤

●森 靜親(三 推) 牛込區上宮比町(毘沙門前)に於いてカフエーオザラを経営す

●轉居

校友諸氏の轉居左の如し。

●三枝守富(維持員) 府下戸塚町戸塚二二一

●波 俊治(講師) 市外西大久保七一

●島崎春樹(講師) 麻布飯倉片町三三

●水田信教(講師) 市外戸塚町下戸塚五一三

●兒林百合松(講師) 神奈川縣鎌倉町亂橋二〇六

●重野紹一郎(舊講師) 荏原郡入新井村字新井宿二六二四

●水島彦一郎(三九大政) 京都府加佐郡中筋村字伊佐津四〇六

●渡邊五郎(三九大政) 市外下澁谷六一九川室方

●片山雄吉(五 政) 府下西巢鴨町巢鴨一九三一

●神邊昂太(四大政) 名古屋市外御器所村字竹戸六三

●岡崎重藏(四 政) 市外澁谷町下澁谷一二七

●田中増太郎(六 政) 市外戸塚町下戸塚一五七

●田村近藏(六 政) 小石川區大塚阪下町二七木暮方

●仲野慶雄(六 政) The Malay Rubber Company, Limited, Seremban, F.M.S. Via Singapore.

●朝賀忠勝(三九大政) 牛込區赤城元町一六(日本郵船會社員)

●佐々木宗勝(四〇 政) 本郷區駒込込町一

●加藤景福(五 大政) 市外巢鴨町二ノ四二

●高西淑次(四一大政) 芝區三田小山町六

●堀江道太郎(四五大政) 神戸市兵庫大井通附屬七ノ一

●安本重治(四一大政) 小石川區宮下町一〇(東京府囑託)

●瀧澤 潜(三八大政) 牛込區河田町一九

●今井幸吉(二八 政) 橫濱市西戸部町六五六

●野村中平(三九大政) 神田區旭町二一

●吉野敏三(七 大政) 淺草區西三筋町四九中瀬古商店内

●田中俊藏(三 政) 本郷區砂町二五朝陽館内

●堀田庄五郎(七 政) 本郷區迫分町八八會陽館

●廣田繁太郎(四五 政) 牛込區天神町三二

●三浦 一(三九大政) 市外西大久保三

●池田作四郎(四 政) 橫濱市南吉田町二九〇

●渡邊有仁(五 大政) 小石川區戸崎町九五小黒方

●杉 八郎(四〇 政) 千葉縣東葛飾郡市川町五ノ五三七

●加藤 弘(7大政) 荏原郡上崎五二五室八三 耶方

●池松林一(7政) 牛込區辨天町一五二
●宮本竹次郎(四〇大政) 横濱市本牧町字牛込二六八〇

●芝池雅義(2政) 大阪市東區淡路町三丁目
●池口太郎(2大法) 大阪市東區岡山町三八九(辯護士)

●堀 榮二(四五法) 小石川區新諏訪町二一愛盛館内

●大館 和一(4法) 赤坂區新坂町七八
●藤田義治(3法) 本郷區丸山新町九

●藤野勝男(6法) 岡山縣赤磐郡高陽村大字長尾六三八
●中田武男(5法) 神田區錦町三ノ一、一橋館内

●西野間半次(6法) 小石川區關口水道町四一小野方(中井銀行員)

●種市真實(7大法) 本郷區田町二八(日清生命保險株式會社契約課勤務)

●黒瀧寅之助(5法) 青森縣上北郡六月村大字折茂吉田貞次郎方

●伊藤文一(5法) 京橋區築地二ノ三〇石部方
●石井佐仲(7大法) 牛込區喜久井町二九島竹次郎方

●大原周作(5大法) 市外下澁谷五八四
●木村大見(二〇法) 本郷區追分町三一第三富士見軒内

●末田德雄(6法) 出征野重第四聯隊輜重隊糧食縱列三ノ九

●高橋信爾(四四法) 淺草區山谷町二四
●齋藤彌彦(三六行) 四谷區舟町三二

●村田勝之助(四一大文) 三重縣度會郡濱鄉村大字黒瀧
●西崎源太郎(7大文) 市外高田村雜司谷一四三 岡田方

●渡邊純吾(四五大文) 神戸市平野矢部町四九番屋敷

●服部嘉香(四一大文) 芝區高輪南町六
●關 實勇(三八大文) 山口縣大島郡小松町藤谷方

●富永一郎(四五大文) 小石川區關口町一七八、一如洞内
●佐羽尾伊佐美(四五大文) 愛知縣八名郡下川村大字手川

●磯部菊一(4大商) 市外千駄ヶ谷九〇二
●鍋島 博(2大商) 市外内藤新宿北裏町九九田尻暢五郎方

●清水八郎(四一大商) 本郷區駒込林町二〇六
●德永代一(6大商) 横濱市青木町下壘六三岩間方

●三宅數多(四〇大商) 神戸市宮本通六ノ一九
●麻生 純(5大商) 名古屋市外步兵第三十三聯隊補充隊第三中隊

●安達和雄(5大商) 下谷區上野櫻木町二
●早川純一(四四大商) 市外高田村雜司ヶ谷六七三

●氏家文夫(四四大商) 横濱市福島町二福壽館内
●林 善次(四五大商) 岐阜縣飛騨國益田郡馬瀬村

●笠島友次郎(5大商) Funakawa Rubber Estate office, c/o Fukuda & Co., No. 5-9 Beach Road, Singapore, S. S.

●服部末男(6大商) 名古屋市西區車之町四丁目二ノ二小貝と方(株式會社名古屋銀行堀川支店勤務)

●川合政雄(四五大商) 赤坂區新町五ノ一
●井口誠一(四一大商) 牛込區市谷長延寺町七

●宮島綱男(四一大商) 大阪市南區天王寺堂ヶ芝町五六二七
●田淵武一(3大商) 愛知縣碧海郡安城町
●太田金七(2大商) 兵庫縣御影字郡家

●倉田四郎(四五大商) 赤坂區青山北町三ノ六八(東海生命社員)

●石橋義雄(四四大商) 芝區下高輪町五七
●佐々木修三郎(6大商) 京都市下京區寺町通綾小路下ル中之町

●佐野 忠(3大商) 牛込區喜久井町一六堀井方
●櫻田助左衛門(6大商) 福岡縣八幡市通町十八丁目長者町

●青木 繁(四二大商) 大阪市南區玉屋町二六
●中村登利三(四二大商) 市外千駄ヶ谷町八七〇

●吉永松雄(7大商) 芝區三田三ノ八七海館
●松田種三(7大商) 大阪市北區南濱町二四一

●石田昌生(7大商) 牛込區辨天町二小川方
●阿部直通(7大商) c/o Choyo & Co., 41 Pinhoe Road, Batavia, Java.

●末森智良(四五大商) 小石川區原町八八
●岸本藤策(2大商) 市外巢鴨町字宮下一八六四

●金子宗二(四五大商) 神田區美土代町三ノ四大島館内
●阿部正大(2大商) 朝鮮京城府三坂通り二四六

●太田金七(2大商) 大阪府下澁谷公園松川庵
●鈴木 豐(6大商) 秋田縣秋田郡阿仁合町字三枝

●山本爲治(3大商) 福岡縣大牟田市稻荷龜之谷礦夫長屋社宅

●宇佐見德輔(四一大商) 牛込區市谷谷町六八
●伊藤榮三(四〇大商) 市外大久保町百人町二三

●廣瀨作三郎(6大商) 横濱市不老町二ノ一三二村田方
●岡田庄三(7理工) 京橋區銀座三ノ三近藤一參方

●中村 鎮(3理工) 市外戸塚町諏訪八二
●磯田恭隆(四五理工) 兵庫縣武庫郡須磨町西代村字加良加良二ノ五七

●鶴谷幸一(3理工) 札幌區山鼻町一〇〇七

●田中大介(五理工) 兵庫縣御影町字平野竹内方
●普光江隆(2理工) 高知縣安藝郡奈牛利町

●竹田 茂(3理工) 市外淀橋町柏木一二五
●代永 泰(7理工) 市外巢鴨、宮仲二二三八

●山田 節(6理工) 芝區三田南寺町五、山内邸内
●辻井 眞(3理工) 兵庫縣武庫郡住吉村字防ヶ塚四七三ノ二

●大林茂夫(7理工) 北海道室蘭區津津日本製鋼所同袍寮
●萩本文海(5理化) 牛込區喜久井町三四桑原芳次郎方

●三船修一郎(7理化) 牛込區早稻田町五早苗館内
●伊藤有道(三六史) 小石川區宮下町五九

●池内恭三郎(7國) 牛込區辨天町一五七辨天館内
●吉原 學(6國) 小石川區原町一〇六

●加藤吉彦(2英) 丸龜市風袋町一二三
●藤山茂彦(6國) 新潟縣岩船郡村上本町

●山中慶吉(三九英) 尼崎市中在家町四ノ三八三
●山元兵七(7英) 牛込區早稻田鶴卷町二九五篠宮方

●藤井昌太(3國) 岡山縣後月郡荏原村大字東江原

●牧野輝智(三〇專) 四谷區内藤町一番地廿八號

●改姓名

校友諸氏の改姓名左の如し。

●馬屋原 勝(7大政) 舊姓吉田(三菱商事株式會社社員、小石川區高田老松町二八)

●森下國雄(6政) 舊姓瀧(栃木縣安蘇郡野上村長谷場)

●川上卯七郎(3政) 舊姓名山崎浩(福岡市上辻堂町二一)

●高橋様次(2大文) 舊姓武藤熊本市警取坂町二

●野田徳八(3大商) 舊名虎吉(静岡縣田方郡熱海町熱海三六〇)

●野村誠一(7大商) 舊姓竹林

●小林岩次郎(四五大商) 舊姓杉浦(四谷區南寺町二二三)

明治四十三年 專門部政治經濟科出身 入村徳一郎

明治四十二年 專門部政治經濟科出身 緩井 松彦

大正五年 大學部政治經濟學科出身 阿波喜太郎

明治二十九年 邦語法律科出身 廣田久之助

明治二十三年 邦語法律科出身 高山喜代藏

明治三十三年 邦語行政科出身 保科文次郎

明治四十年 大學部文學科出身 三浦 俊彦

明治四十三年 大學部商科出身 佐竹 完治

明治四十二年 大學部商科出身 大塚 祥三

明治四十四年 大學部商科出身 井内 勝

明治四十四年 大學部商科出身 興橋木李太郎

大正七年 大學部商科出身 北村基次郎

大正三年 大學部理工科探礦學科 湯淺 義雄

大正二年 大學部理工科電氣工學科出身 吉田 博雄

大正四年 大學部理工科機械工學科出身 楠田 喬

明治四十四年 高等師範部英語科出身 中田 廣市

明治三十八年 高等師範部歷史地理學科出身 萩原 芳政

明治三十八年 高等師範部歷史地理學科出身 渡邊 魁

大正五年 推選校友 市嶋 友松

右諸氏の訃報に接し哀悼の至りに堪へず謹んで弔意を表す

●家富重尙(四一大商) 舊姓福澤(四谷區須賀町三)

●山瀬壽一(四三大商) 舊姓名中村六郎(牛込區市谷河田町九)

●仁科 辰(5大商) 舊姓綾(岡山市紙屋町三井物産會社内)

●磯田貞次(4理工) 舊姓五十嵐

●伊東幾太(5理工) 舊姓松本

大隈侯爵記念品贈呈資金申込芳名 (第四回報告)

- 一金貳圓宛 山澤 俊夫殿 谷崎善三郎殿
- 一金壹圓宛 清水 孝藏殿 佐藤新三郎殿
- 中村 甚一殿
- 大野喜代三殿 廣月 凌殿
- 一金壹圓宛
- 井上 隆一殿 井手時太郎殿 井上 正直殿
- 井狩 重之殿 井口龜三郎殿 井上 隆一殿
- 井芹 繼志殿 石井 信二殿 石井茂兵衛殿
- 石井 昭資殿 石崎西之允殿 石田數太郎殿
- 石田 秀一殿 石川 頼一殿 石川 洗殿
- 石川九後大郎殿石橋 貞男殿 石黒 定美殿
- 石丸 英一殿 石津 英熊殿 石原經太郎殿
- 伊藤 昇殿 伊藤東二郎殿 伊藤 正殿
- 伊集院勝吉殿 伊東 磐根殿 伊勢 縣藏殿
- 岩永 武道殿 岩永 重華殿 岩崎 重吉殿
- 岩井三郎殿 岩佐 喬一殿 岩元榮次郎殿
- 岩城 俊藏殿 岩部 傳吉殿 飯島 操次殿
- 飯島 六郎殿 飯野與三郎殿 飯野 清重殿
- 飯岡正次郎殿 飯田 三郎殿 今井 孝殿
- 今井 五郎殿 今井 紀綱殿 今井 一雄殿
- 今村雄久馬殿 今川 鎮夫殿 今田徳太郎殿
- 池田 常道殿 池田菊右衛門殿 池袋 春樹殿

- 市川 博殿 市川 勇殿 市野瀨三郎殿
- 市村 峯雄殿 稻田吉治郎殿 入江平一郎殿
- 入江 郁夫殿 入谷 哲平殿 磯田與次郎殿
- 磯田 恭隆殿 磯部 重造殿 出日 辰喜殿
- 生島 勝一殿 生田政右衛門殿 猪野 利猛殿
- 猪飼 清六殿 犬飼 健藏殿 絲原 高禮殿
- 一色 順雄殿 家本 爲一殿 巖本 莊民殿
- 原 武雄殿 原 慧德殿 原 俊芳殿
- 原 誠助殿 原 重文殿 原 忠篤殿
- 原 公藏殿 原 文吉殿 原田 雄次殿
- 原田 友厚殿 原田 壽男殿 橋本 英夫殿
- 橋本 廣人殿 橋本 幹七殿 橋爪作太郎殿
- 林 元一殿 林 六郎殿 林 武義殿
- 林 庸太郎殿 林原 憲貞殿 長谷川彌榮殿
- 畑 豐吉殿 畑中與七郎殿 濱 惣重殿
- 濱田 四郎殿 濱田 修藏殿 花田勝四郎殿
- 花村 鋼造殿 早川三次郎殿 早川 徳次殿
- 早川 若三殿 波多野林一殿 萩原 民治殿
- 速水鑽次郎殿 蜂須賀武彦殿 羽木 貞雄殿
- 坂東 琢郎殿 張谷 芳夫殿 芳賀 榮造殿
- 仁村 篤司殿 仁王頭長二殿 新津 隆一殿
- 新澤 準太殿 西村仙三郎殿 西村誠三郎殿
- 西川光二郎殿 西川 玄雄殿 西田 俊一殿
- 西田 優一殿 西山 秀市殿 西山己之助殿
- 西原 政太殿 西方 彌八殿 西尾 茂重殿
- 西堀 末吉殿 西島 源次殿 西井 行一殿
- 西岡秀之助殿 星野辨五郎殿 星野 剛男殿
- 星島 昂一殿 堀 林之助殿 堀江 朝殿
- 堀江善五郎殿 堀内龜五郎殿 堀口 龜重殿
- 堀本美之作殿 細田房太郎殿 細谷 太郎殿
- 本庄 圭一殿 本郷 良吉殿 北條 勸一殿
- 布袋 成一殿 裝地 直平殿 千川 才作殿
- 本間其太郎殿 富田達三郎殿 四城寺松一殿
- 安東 友哉殿 富田 駒吉殿 富村 順一殿
- 富澤 義圓殿 鳥越 正三殿 戸谷 章殿
- 戸田 常次殿 戸川 多助殿 土井 瀨一殿
- 土師 寅造殿 豊田 大誓殿 豊田 俊助殿
- 豊口 鼎三殿 徳永 喜一殿 時山 勇殿
- 東海 龍穩殿 殿界 榮吉殿 登坂宇之一郎殿
- 大塚 氏明殿 大塚 祐壽殿 大澤 定正殿
- 大澤 準二殿 大槻 知定殿 大槻 茂殿
- 大野 芳麿殿 大野 三郎殿 大久保徳太郎殿
- 大久保清志殿 大西 通幸殿 大西 虎雄殿
- 大原 晴雄殿 大成和一郎殿 大畑 正行殿
- 大津 留博殿 大石 義之殿 大森 忠彦殿
- 大島 親貞殿 大山 嘉藏殿 大場 運次殿
- 大泉宗七郎殿 大山 岩雄殿 大岡 俊殿
- 大嘗 篤平殿 大脇鏡三郎殿 小川 鐵郎殿
- 小川 清吉殿 小川小三郎殿 小澤 恒一殿
- 小野 芳彦殿 小野 鼎殿 小笠原助一殿
- 小田 榮次殿 大河内隆弘殿 安藤 忠義殿
- 秋山武太郎殿 尾上 八郎殿 桂 五十郎殿
- 岡田 正美殿 梅若誠太郎殿 コツクス殿
- 勝侯詮吉郎殿 遠藤 又藏殿 小山田淑助殿
- 奥田 一郎殿 奥田 新殿 奥村 英一殿
- 奥山 茂殿 奥村繁太郎殿 奥澤 治輔殿
- 岡田常太郎殿 岡田 玄三殿 岡本 形吉殿
- 岡本駒之助殿 岡元喜藤太殿 岡崎順二郎殿
- 岡崎 主計殿 岡崎 密乘殿 太田 周平殿
- 太田義之助殿 太田垣藤太殿 尾崎義三郎殿
- 尾崎 三郎殿 佐藤 雄能殿 尾原 始殿
- 松川 綱殿 奥 秀太郎殿 尾原 義一殿
- 萩野萬之助殿 落合吾八郎 扇浦 義一殿
- 忍 健夫殿 鬼塚 民衛殿 翁 玄旨殿
- 和田 俊嶺殿 和田 宗武殿 和田 寅吉殿
- 和智 忠男殿 和島藏之助殿 渡邊豊四郎殿
- 渡邊 博道殿 渡邊 五郎殿 渡邊 精善殿
- 渡邊 琢磨殿 渡邊代五郎殿 渡邊源二郎殿
- 渡邊 祐康殿 渡邊 富人殿 渡邊藤十郎殿
- 渡邊金三郎殿 若松 精一殿 若槻 直樹殿

若林 忠武殿	若間 平一殿	滿島保太郎殿
鷺見 露一殿	脇田邦一郎殿	加藤 貞一殿
加藤 銀藏殿	加藤泰次郎殿	加藤松四郎殿
加藤 雄真殿	加藤 覺隆殿	加藤太喜治殿
加藤 虎清殿	加納 惠吉殿	川島 憲治殿
川島榮三郎殿	川原 惟基殿	川原田政太郎殿
川村 浩殿	川上 清助殿	川邊秀次郎殿
河村 又一殿	河村信四郎殿	河島 憲一殿
河田 正澄殿	河合 清殿	金子 靖殿
金子 武殿	金子 清殿	金澤直治郎殿
金竹 馨殿	金谷直次郎殿	柏木 鏡男殿
柏木長太郎殿	柏木 寛殿	松下 史郎殿
牧田長三郎殿	柏原 馨殿	片山 雄吉殿
片岡 開殿	笠井 勝男殿	笠原養治郎殿
笠原 博殿	甲斐 國男殿	神戶 正學殿
神田 健一殿	神谷 文平殿	蒲池 鎮雄殿
勝田 清忠殿	門井 省三殿	藤 圭 復殿
香取 吉萬殿	風間 忠任殿	影近 清毅殿
影山 清雄殿	梶 齋殿	梶川喜三次殿
我喜屋宗信殿	唐澤 熊雄殿	徳田 鶴夫殿
柿添 寛喜殿	片尾 廉爾殿	横山 常次殿
横矢 重道殿	横瀬 乙吉殿	横井彦一殿
横尾 清殿	横溝 薫一殿	吉田 淳殿
吉田 巖殿	吉田 廉殿	吉澤 清藏殿
吉川 利一殿	吉川 周吉殿	吉川 收殿
吉村 繁俊殿	吉武 慶殿	吉原 學殿
吉留伸之丞殿	吉井 要人殿	吉崎宇右衛門殿
米田 勝達殿	米谷 昇平殿	米良 立雄殿
米山 勳殿	米澤 之健殿	芳倉 新吾殿
能田登次郎殿	田中 健介殿	田中文太郎殿
田中 引一殿	田中 直治殿	田中政右衛門殿
田中 只江殿	田中 秀穂殿	田中宗太郎殿
田中駒太郎殿	田中幸右衛門殿	田村 隆一殿
田村信一郎殿	田口 大介殿	田邊虎三郎殿
田邊 感善殿	田代 泰一殿	田代 英介殿

田戸 茂八殿	田上耕之助殿	田崎 千夫殿
田内 眞能殿	田付 寛次殿	田部種之助殿
高橋 彦重殿	高橋 鈍吾殿	高橋 増基殿
高橋 謙三殿	高橋 悌介殿	高橋 章正殿
高橋 信茂殿	高塚 康平殿	高瀬 清光殿
高瀬 孝仁殿	高木 正次殿	高木鑽四郎殿
高田 勇雄殿	高田兼太郎殿	高野 清殿
高野 健介殿	高須芳次郎殿	高柳祐五郎殿
高口 龜一殿	高江 幸彦殿	高松 常市殿
高見澤一介殿	高下 才介殿	高谷 祐次殿
高岡 安根殿	高見 實英殿	高島 徹殿
高崎順一郎殿	武谷 兼信殿	武田善之助殿
武田 正夫殿	武埜 祐吉殿	武井昌三郎殿
武南 倉造殿	武宮 智學殿	竹田津昌房殿
竹田 熊吉殿	竹之内文雄殿	竹村 佳康殿
竹林磯次郎殿	竹本 禮二殿	谷 和一郎殿
谷 次郎殿	谷口 守雄殿	谷口富士男殿
谷名 新一殿	立山又四郎殿	立野 庄市殿
立花 寛篤殿	立川銀二郎殿	多賀 叔男殿
檀 廣榮殿	丹吳 康平殿	玉島 實雅殿
瀧澤 敬也殿	孫永 嵩殿	添谷 勝馬殿
千本 隆一殿	中條良二郎殿	塚原滿一殿
塚越孝次郎殿	辻 寛殿	辻 樽殿
辻岡 榮三殿	辻畑 重俊殿	土屋 充殿
土屋 卓三殿	土田 元郎殿	都築 謙治殿
都築 謙雄殿	月本 策彌殿	露崎 薫殿
筑紫 宮雄殿	筒井 清彦殿	中村 孝吉殿
中村登利三殿	中村 豐彦殿	中村他家次郎殿
中村憲太郎殿	中村 祐吉殿	中村 功殿
中村 郁郎殿	中山 準藏殿	中山順次郎殿
中山 廉助殿	中山 藤吉殿	中田 訥殿
中泉 新殿	中西 順三殿	中新井 健殿
中林邦之助殿	中森 利平殿	中島 毅一殿
中川 清哉殿	長田 善平殿	長坂 長殿
長坂 友藏殿	長平 信夫殿	長澤 龜吉殿

- 長安 保二殿 長内 健榮殿 長崎 治郎殿
 - 永井 彌彦殿 永井新一郎殿 永田 貞雄殿
 - 永田巳代治殿 永見久太郎殿 門脇 三藏殿
 - 内藤 正廣殿 成瀬 清殿 鳴浦清次郎殿
 - 樽崎幸一郎殿 仲吉 良光殿 羅 弘錫殿
 - 村上 彌生殿 村上武三郎殿 村山 至大殿
- (以下次號)

學會會合

●早稲田文藝會秋季公開講演會、十一月十六日(土曜)午後一時より本大學大講堂に開き、左の四氏の講演があつた。

- 一、一茶の話 生方 敏郎氏
- 一、近代文人の見たる性の問題 島村 民藏氏
- 一、ローマンライシズムの要求 片上 仲氏
- 一、神祕主義の心理、倫理 田中 王堂氏

●稻友會

十一月二十四日(日曜)午後零時より校庭に於いて早稲田工手學校第十四回稻友會を開く。此の日秋晴れの好天氣なりしかば校友學生の來り會する者千餘に達し盛況を呈せり。會長德永博士の開會辭ありたる後、本大學學長平沼博士高田博士總長大隈侯爵の演説ありて多大の感激を與へられ、尙ほ餘興として日本太郎の落語、江馬旭子の筑前琵琶、小金井蘆洲の講談ありて萬歳聲裡に五時閉會せり。

學生會會合

●支那協會大講演會

新内閣成立して猶ほ對支外交方針定まらず、媾和來の聲聞えて日支經濟界益々活躍を見んとする時に當り、早稲田一萬の學徒對支問題に關する天下の卓説を要求して已まず。ここに於てか、十月十二日(土曜)午後一時より大講堂に於て、支那協會秋季大講演會を開催す。講演者大隈侯爵を首め安達憲政會總務、寺尾博士等にして、連日の降雨くまなく晴れて秋天高く好適なる講演日和なりき。定刻一時間前、聽講者潮の如く場に滿ち、本大學學生は勿論帝大、外國語學、高師、高商等滿都の學生を集め既に立錫の餘地なく、已むを得ず開講前入場を謝絶するの盛況を見る。時至つて雷の如き拍手に迎へられ本會々長青柳教授挨拶として滿堂二千の學生に對し「私は本會會長として御挨拶申上ぐべき任務を有す」と喜悅を浮べて、徐ろに「亞米利加合衆國大統領ウィルソン氏は世界を通じて共和民族の大團結民主國の大聯合てふ大理想を抱き今や實行努力最中である。我善隣支那は今を去る八年前君主政體を轉じて共和國となしたるより米國の支那に對する同情はこの大理想によるものと認められねばならん。米國の支那に對する同情は支那今日の政體にかゝると雖も凡そ政體に絶對の美なく、即ち知る米の對支同情は支那そのものに對するよりは共和政體そのものにかゝる誠にたのもしからざる浮雲の如き一時的の同情である。反之我日本と支那の關係はその根本となす所種族を同じうす

る點にあり。苟も日本民族の有らん限り支那民族の盡ざる限り政體の如何を問はず永遠無窮なりと信ず古語に曰く血は水より重しと誠に眞ならずや」と言はる、や支那三百の留學生拍手急ぎの如く、滿堂之に和す。續いて早稲田大學と支那の關係、十有六年の本會の歴史と目的を述べられ、次に憲政會總務安達謙藏氏「經濟上より見たる對支根本方針」と題して熱辯を振はれ、「世界地圖により我國の形を見るに南北に細長く甚だ心細き觀をなす」と諧謔一番徐ろに我國の自給自足策より國防問題支那領土保全と轉々として、更に大隈内閣寺内内閣の對支外交策より進んで現内閣に論及せらる、や首を擡めて、痛快なる論調にて、總理大臣外務大臣の對支外交方策を首め放漫なる自然主義の無能無策を論ぜられ、寧ろ政府無きに如かずと論ぜられ、民間に於ける日支經濟合辦事業を獎勵せられて降壇。次に法學博士寺尾亨氏從容壇に立たれ「毎度大隈侯爵は我に一師團の兵ありと言ひ給へしが今日の早稲田の盛大は……と破顔一笑せられ、『現下の支那政局』の題下に支那南北戦争の起原より第一次第二次の革命に論緒を開かれ現下の對支問題に及ばれ、約一時間半に互り支那の現狀歴然掌を指すが如く目前に展開せられたり。時に大隈侯爵は令嗣信常氏陸軍中將佐藤次郎氏及び守谷此助氏等を隨へ來場せらる。大勳位の略綬赫如たり滿堂鼎の沸くが如く、總長の健康を祝福し、侯爵を壇上に迎ふるに及んで再び拍手の音大講堂を裂かんとばかり、早稲田の森爲めに震動するを覺ゆ「見渡す處支那人も多いが日本人も多くて何れが支那人か區別が出来ん、多分諸君の思想

感情も吾人と同一であらふ。今日は極く斷片的に現代の東洋人が世界に對する思想の概略を述べたい」と老侯相變らずの大元氣に、孔孟王霸の道の支那及日本の思想に影響せる言様を説かれ、「支那大觀」なる本題に入りて約一時間餘に互り、極めて活氣横溢せる態度と言辭を以て日支兩國學生の奮起を促され、「總ては爲さざるによるものにして天下能はざるものなき也獨逸の堅甲利兵米國の富力共に必ずしも恐るべからず。この氣象を以て日支學生共に勇敢に邁進すべきである」と激勵せられ、懇篤なる教を垂れられ以て降壇せらる。後ち兒瀬幹事の閉會の辭あり。斯の如くにして支那協會秋季大講演會は十二分の盛況裡に大なる成功を以て終了せり。時に午後五時直ちに幹事會員一同高川牧舎に懇親會を開き青柳會長出席。學生の夏季休暇に於ける支那漫遊談等あり。萬歲裡に散會せり。(補生記)

運動

●對明大弓術試合 十一月九日午前十時より本校道場に於て對明大試合を開催す、當日出陣選手は本校方前川、金森、土井、中村、坪内、小倉、神保、井東、森下、岡田。明大方味方、高須、山崎、大島、落合、黒田、齋藤松田、新、寺島の十名宛にて何れも劣らぬ剛の者なり。先づ源平戰尺二的二十射の競射をなす。扱愈戦端開始を宣するや、當日の先頭を飾る沈勇武者前川は悠然として火蓋を切る我が軍初立より優勢にして既に五本を勝ち越し、二立、三立に及びて尙ほ敵を壓倒し、遂に百拾六中對九拾三中にて大勝す。此戰に

於て我軍の神保十六中、前川十五中は特筆すべきなり。次で紅白戰に移りしに、小倉先づ敵の三名を倒し、我軍優勢なりしも、敵の怪將齋藤は好漢神保を刺してより勢を得、次で坪内、土井、金森を倒し、大いに大勢を挽回す。而して尙ほ突進せんと見えしが、老練なる岡田と對するに及び勢ひ挫け、遂に引分となる。斯くて勝負は何れとも相見えざりしが、我副將井東が敵の副將落合に惜しき敗を取りてより、主將森下出馬し、難なく落合を倒し、次で敵の主將寺島と對するや一立にして彼を敗り、遂に我軍の大勝となる。此の戰中先陣小倉の三人を倒したると、主將森下の八射皆中、岡田の齋藤との引分けとは共に功勞深きものなり。又齋藤の源平戰にて十四中紅白戰にて四名を倒したるは、敵ながら稱讚に價すべきものなりき。(幹事神保道臣記す)

●稻門艇友會秋季大會 水上運動會終了後長命寺内上竹に於て開催、宮木幹事の開會の辭鹽澤會長の挨拶ありて會長より幹事長及幹事を左の如く指名す。
幹事長 氏家謙曹、幹事 岩田豊之助、入澤忠二、岩根榮一、池内恭三郎、西山巳之助、二階堂行善、小熊倉次郎、小笠原勤一、上村鐵雄、高田軍三、辻橋、山本義之、柳田美津男、松江房次、深澤政介、兒島俊之助、水谷武三、輪吉太郎、澁谷三、一圓五郎、盛山智利、常任幹事 大井派太郎、宮木昌常、杉本光治例に依つて雜談やら氣焔に花を咲かし、各科學生より祝勝會、慰勞會への出席を催促され乍ら午後七時散會せり、出席者左の如し。(順序不同)

テニス團渡滿旅行記

▲六月二十九日(晴) 部長高杉先生を監督としてマネジャー 勸修寺君の指揮に吾等一行十五名元氣旺盛偉大なる希望と非常なる好奇心とを抱いて關西の先輩校友諸兄の見送を受け、五千噸のハルピン丸に搭じ、萬歲聲裡に緑の山を後にして神戸の港を出帆しぬ。甲板に昇れば壯大なる瀬戸内海の景吾等の眼界に展開し來り歡喜言はん方なし。
▲六月三十日(晴) 船は悠悠午前十時門司に着す茲にて一行の者竹下、郡、相羽の三名加はり一行先輩の案内にて門司を見物す。
▲七月一日(晴) 天氣は清朗夏の海を遠く發揮して心地よかりしも、晝頃より急に風出て高く霧深くして、霧々たる海原に響く警笛の音凄く船房に逃げ込む者多し。夕刻より風威殊の外強く船の動搖激しかりき。
▲七月二日(晴) 憶懐れし大連灣に最後の航海を祝福する如く太陽は紅々と昇り、船は油の如き埠頭に横着せられぬ。直ちに馬車を驅つて内地には見られぬ煉瓦の大層高樓の竝ぶアカシヤの並木街を通り、西公園に母校岸君の奮闘場を見る。遠征軍明

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 鈴木治三郎 | 深澤 政介 | 水谷 武 |
| 高木 武夫 | 澁谷 三 | 古藤 秀三 |
| 畑 重三 | 三輪吉太郎 | 島崎 尚 |
| 兼坂 中 | 松宮 三郎 | 注 稻 |
| 石井 英祐 | 上村 鐵雄 | 岩田豊之助 |
| 高田 軍三 | 中村 喜藏 | 河野 靜 |
| 西山巳之助 | 池田唯之助 | 島中 敬一 |
| 八幡 恭助 | 三浦友三郎 | 入澤 忠二 |
| 矢島 力 | 山内 賢三 | 松江 房次 |
| 小笠原勤一 | 松本 光治 | 二階堂行善 |
| 大井派太郎 | 岩根 榮一 | 栗林 慎二 |
| 立花米次郎 | 喜多壯一郎 | 池内恭三郎 |
| 庄司 直義 | 宮木 昌常 | |

大は惜しくも敗れたり。夜は大連の静寂なる若狹町の一角美佐館に投じ、長途の疲勞を醫しぬ。

▲七月三日(晴) 滿鐵の森君に案内され北公園に着連後の練習を行ふ。午後山縣通の三井物産コートにて練習し、夕刻歸る。夜は先輩頭事務所に奉職せる加藤君の案内にて電氣公園を見る。苦力不佞の板札何んとなき寂しい感を感じさせしめぬ。

▲七月四日(晴) 午前校友大森君の案内にて滿鐵の經營にかゝる市外沙河口の工場を見學。規模の廣大實に驚くべく、滿鐵の汽車は皆並にて製造さる。使用人支那人多し。午後北公園にて渡滿後第一回の仕合を行ふ。對滿鐵、結局優退四不戦三にて大勝せり。夜は東洋一の大和ホテルにて滿鐵の歡迎會あり。静かな夜に勇ましい「都の西北の校歌が闇を縫うて流れ行くのは殊に多感な青年吾々に深い感をも與へた。

▲七月五日(晴) 三井物産の經營にかゝる豆糟製造と豆油製造工場を見學す。すべて支那人の苦力にして裸體炎暑に堪へ得る事日本人の到底不及處にして且つ又労働能力も日本人以上なり。而して彼等の生活状態は意外に低く金を貯蓄して故郷に歸るを樂しみにせりと。

午後三時より對三井物産。長途の疲勞がコートの罪なりしが吾軍利あらず、優退一を殘して暗黒の爲め中止。夜は三井物産の招待にて郊外星が浦の海岸に自動車を驅つて清遊を試み、牛肉をついで歓談湧く。

▲七月六日(晴) 午後對全大連。思ひ設けざりし異境にて残念にも敗北せり。夜校友の招待あり。

▲七月七日(晴) 對第二回オール大連。昨日の復讐戦にて我軍意氣揚り、優退三を出し形勢よりしも、不幸驟雨の爲め中止。非常に遺憾なりき。夜全大連軍の招待にて海岸老虎灘に遊ぶ。

▲七月八日(雨後晴) 昨夜來の降雨歇まず、旅順を行を止めんとせしも、幸十時頃より晴天になりしが

ば、一行大連を立つて旅順に向ふ。彼の有名なる兩將の會見地水師營は汽車中にて遠くの小さき小部落の森を案内者が、それと云ひしのみなりき。旅順に著し午餐を取り支那人の馬車を驅つて先づ白玉山に登り、戦死せる幾多の靈を弔ひ、旅順の風光を瞰下す。あれが旅順口かと言はるんばかりに小さい灣口なり。表忠塔を見、東鷄冠山に向ふ。旅順の一木一草一石は吾亡き同胞の血と涙を語るものなり。二百三高地に向ふ。偉人乃木大將の書きし「爾靈山」の碑は高く聳え、訪ふ人をして永久に靈感を覺えしむ。



夜大連を後にしぬ。▲七月九日(晴後驟雨) 黎明遼陽に到着し、朝餐を喫し、遼陽城を見物す。中央の小高き丘に登り、

一行の奇異に感ぜしものなり。對遼陽戦。優退四不戦三にて大勝す。夜歡迎會ありたり。

▲七月十日(晴) 遼陽を午前十時に出發し、撫順に午後一時到着、直ちに有名なる「露天堀」を見學。炭田は凡そ十萬餘坪にして、向ふ十五年間に掘り盡す豫定なりと。採炭活動の有様一目瞭然たり。遼陽は既に過去の都にして撫順は滿鐵唯一の富源、且つ工場地たり。

午後四時より。對撫順仕合。優退三不戦二にて大勝せり。

▲七月十一日(晴暑) 午前撫順炭坑の第一大山坑を見る。炭量十萬噸、東西四里に渡り、炭層の厚さ百五十尺乃至二百尺なりとぞ。午後四時撫順との二回戦。優退四不戦三にて勝。夜山陽樓にて校友の歡迎會ありたり。

▲七月十二日(晴) 撫順を曉起して立ち、無味乾燥な只高粱の二三尺に延びし地を汽車は行く。午後長春に着し大和ホテルに投宿。此夜高杉部長はハルビンに見物に行かれたり。

▲七月十二日(晴) 別にこれと云ふ興味を惹き起すべきものなし。只露西亞と境界を接すると云ふのみにて荒涼たるものなり。午後對長春戦。優退四不戦三にて大勝。夜長春を出發して夜汽車の旅を奉天に向ふ。

▲七月十四日(晴) 午前奉天に着し、一壺の後練習し、四時より對奉天戦を行ふ。結局優退三不戦三にて大勝せり。先生此日ハルビンより歸着す。

▲七月十五日(晴) 午前八時馬車に分乘し、清の文宗皇帝の眠れる地、北陵に遊ぶ。三百年の昔になれる建築物依然として舊の如く、只壯大なるに驚けり。後、清朝の宮城を見學。壯大燦爛只建築に關する知識無きを遺憾とせり。午餐は支那料理に舌鼓を打つ。夜奉天を立つ。

▲七月十六日 奉天より京城に向ふ車中。

員委會動運大上陸典祝年五十三立創

日露戦争に出でし中尉の説明を聞く。宛然吾眼に當時の有様が映するが如く感じぬ。校友なる支那人の案内にて獄屋と小學校を見る。小學校は殊の外

▲七月十七日(晴) 一行元氣にて京城に入る。風物内地の色彩を帯び、久しく南滿を漂浪せし吾々にとりては非常に嬉しかりき。午後仕合。當地は庭球熱々盛んにして、入場料を徴せり。幸ひ優退二不戦二にて大勝せり。

▲七月十八日(晴) 午前昌徳宮を見物。廣大にして松樹多く、鶴又舞ひて實に風聲鶴唳の感を深うして大勝せり。夜美しい京城ホテルにて歓迎あり。

▲七月十九日(晴) マネジャーとして同行せられし勤修寺君は満鐵車頭奉職の爲め一行と京城にて別る。名殘惜しかりき。汽車と船中とに日は紅と昇り、紅々と海上に没しぬ。そして愉快なりし長途の族は今日を以て終りぬ。一行中先生は大丘に令妹を訪ふ爲め下車せり。七月二十日吾等十六名は久々の感を抱いて山縁なる内地に到着せり。(雅生)

●故尾崎弓術師追悼會 十月五日故尾崎師範追悼大會を開催す。午前十時道場の西方に安置せる靈前にて齋藤神官の森嚴なる神前式あり、其の祝詞をあぐるや、言々身にしみて故師範を追憶する情いと深く暗涙を催せり斯くて一同靈串をさ、けて式を終る。

平沼部長、浦上師範、校友田井氏及古川氏の列席せられし事を深く感謝す。式後浦上師範の禮射及選手一同の禮射ありて對部競射に移る。出席せるは劍道、柔道、角力、端艇、野球の五部にして、競射の結果は一等端艇部、二等劍道部、三等角力部、四等柔道部、五等野球部となる。午後一時より部員一同の源平試合を行ふ。百餘名の武者二手に分れて戦ふ事四時間、終に差三點の接戦にて源軍の勝となる。兩軍併せての成績優等者は、一等森下、二等木下、三等岡田、四等川添、五等三井の

五氏なりき。後茶菓の饗應ありて午後六時半散會せり。

翌六日來賓、校友及び各學校選手を招待す、午前十時來賓及び校友の禮射あり。金的是校友朝田君の一光に終る。

午後各學校選手競射に移る。來會者七十名にて入賞左の如し。(神保道臣)

- 一等 慶應、玉那覇君 二等 高工、八木君
 - 三等 高商、井口君 四等 高師、村主君
 - 五等 高商、高野君 六等 宗大、澁谷君
 - 七等 宗大、村上君 八等 明大、味方君
 - 九等 一高、大島君 十等 一高、仲村君
 - 十一等 農大、會田君 十二等 慶應、石渡君
 - 十三等 高鷺、土生君 十四等 高商、堀江君
 - 十五等 慶應、田尻君
- 尚ほ金的是農大會田君一等、高工中根君二等の二光にて終る。閉會せしは午後八時なりき。

雜報

●永樂俱樂部消息

▲早稻田大學新任維持員招待會 十一月九日午後五時より今回新に就任せられたる早稻田大學維持員招待會を開催せり出席者左の如し

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 増田 義一 | 松山忠二 | 松平 康國 |
| 鹽澤 昌貞 | 松平 頼壽 | 中島平次郎 |
| 上原 鹿造 | 三枝 守富 | 田中 穂積 |
| 坪内 雄藏 | 山田英太郎 | 金子 馬治 |
| 高田 早苗 | 宮田 修 | 中村 進午 |
| 渡邊 亨 | 平沼 淑郎 | |
- 會 員 名取 夏司 伴野 賢造 中野 勇平

田坂 貞雄 坪谷善四郎 羽田 智證

野村 龜藏 清水 長郷 頼母木桂吉

相良 常雄 大橋 誠一 高橋都素武

小松 林藏 能勢 吉夫 徳永 重康

平野英一郎 田中唯一郎 丹羽 幸夫

齋藤忠太郎 齋藤 義一 中村康之助

星野 治作 綿織 幹 坪内 信

前島 彌 井上辰九郎 池田 龍一

小久江成一 久須美東馬 島野 金吾

荻窪 潔 松田 駿 田中小太郎

桑原 淳貫 關 和知 田中四郎左衛門

山澤 俊夫 市川 繁彌 荻野元太郎

田淵 豊吉 西尾 謙吉 河内富次郎

奥田 雲藏 鈴木佐平治 永谷武右衛門

高根 義人

平沼學長は、永樂俱樂部委員長として恰も當席の主人側を代表すべき資格にあられたるを以て、新任維持員歡迎の辭を述べ、高田博士

ば維持員側を代表して之に答へ、主客打ち解けて十二分の歡を盡し散會したるは九時過ぎなりき。

▲委員會 當俱樂部も漸次入會者の數を増し諸般の設備亦漸く緒に著くに至りたるを以て入會者の範圍に関する規約條項の改正を必要とする議を唱ふるもの尠からざるにより、十一月九日午後三時より委員會を開き、左記改正案を可決し、近く總會を開きて、之れを附議すること、なしたり。

規約改正案
第二條を左の通り改正す
本俱樂部は早稻田大學校友並に其の縁故者な

以て組織す
第四條に左の二項を加ふ
入會の承認を経たるものは入會金として金五

拾圓を納むべし
但し早稻田大學校友に限り當分の内入會金を免除す

▲諸會合 としては午餐會(毎週水曜日)球戲會(毎週月曜日午後三時より)園藝會(毎週木曜日午後二時より)諸曲會、並に清元、長唄等毎週一回若くは二回開會し、何れも毎回其の道の達人出席して、指導教授の任に當り居れり。殊に水曜日の午餐會には、在京の校友は勿論、時々地方より上京の校友諸氏とも交親の機會あれば、廣く校友諸君の出席を歡迎し居れり。

▲臨時總會 十一月二十日午後一時半より臨時總會を開き左記規約改正案を可決したり。

規約第二條を左の通り改正す
本俱樂部は早稻田大學校友並に其の縁故者

者を以て組織す
右改正の結果、早稻田大學校友のみならず、校友の縁故者も會員たることを得るに至れり

▲電話増設 既設電話本局三八九番の外、新に本局二三六番を増設したり。

●祝典懸賞應募歌詞 過般創立三十五年紀念祝典舉行に就き、之れが祝典歌詞を學生間に懸賞募集したる所、應募歌詞八十七首、金子文科々長、五十嵐、片上兩教授嚴密なる審査の下に左の三首を以て二等當選としたるが、前號掲載の如く式典當日に歌はれたるは足達盛龍氏作なり。

當選歌詞
高等理科第三部一年 足達 盛龍
都の北の森蔭に

呱呱の聲を擧げしより
星霜移り三十と
五年の秋はめぐり來ぬ。
今しも昇る陽を浴びて
理想の衣身にまとひ
地を踏み天を指して
立てる男子を君見すや。
見よや勝利と光榮の
月桂冠は輝けり
はえある今日といさほしを
た、え歌はむことほがむ。

英文科三年 上村 英雄

永劫久遠の理想を仰ぎ
學獨立の旗幟ひるがへし
天下に生れて三十五年
歴史は輝く早稲田大學。
あらゆる文化の花咲く園生
集ひて散ずる我等が友は
數萬を唱へて世界に及ぶ
いみじく榮えし早稲田學園。
自由と進取の精神もちて
我等が働く舞臺は世界
前途は希望の光に満てり
いざ、諸共壽ぎ祝はむ。

英文科二年 水井豊太郎

早苗より、植ゑはぐくまれ
輝ける、理想の下に
生ひ立ちし、根もすこやかに
伸び行きて、早稲田稔りぬ。
からりと、嗚子も笑へ
群れ集ふ、雀も踊れ

啄むに、まかせし垂穂、
ゆたかにも、早稲田波うつ。
作りなす、田は變らねど
年々の、みのり新に
繰り返す、その收穫も

數ふれば、三十五年。
●報知新聞主催婦人講演會に於ける、總長、學長
の講演 十一月二十四日午後一時より本大學
講堂に於て報知新聞婦人講演會開催せられ、
平沼學長は「婦人に對する思想」の題下に講演
あり。更に大隈總長「現代婦人に望む」の題下
に警告的講演ありたるが、聽衆千餘名盛會な
りき。

●平沼學長の講話 學長平沼博士は十一月二
十四日夜本郷森川町一番地鶴山館に於ける津
山青年協和會に臨み、會長として一席の講話
ありたり。

●内ヶ崎教授の地方講演 教授内ヶ崎作三郎
氏は十一月三日午後二時横濱相模常設館に於
ける自治俱樂部主催の講演會に臨み、聯合軍
勝利の背景としての自治的精神の題下に講
演あり。聽衆三千人

十一月八日夜大阪教會主催の講演會に臨み、
翌九日午後二時婦人矯風會大會を開き「大戦
亂と性的問題」に就きて一時間半の講演を爲
す。悪性感冒流行の折柄なるに雨天なりしか
ば聽衆百人に過ぎざりき。同日午後七時同教
會に於いて「現代文明に對する宗教の使命」に
就いて講演を爲し、翌十日午後二時同地學生
大會に於いて「歐洲戰亂の原因結果」に就いて
約二時間の講演を爲す。聽衆數百名。尙ほ同
地滞在中前理事會を代表して同地評議員諸氏
を應訪して昨年來の奔走盡力に對し、謝意を

表したり。
十月三十日午後千葉縣松戸町縣立高等園藝學
校創立三十年紀念會に招かれ「労働より信念
へ」の題下に一時間半の講演を爲し、後ち美
事なる庭園に案内せられ夕刻歸京したり。
十一月十九日青山學院高等學部新教室落成紀
念會に招かれ、午後八時より十時に至るまで
「歐洲大亂の意義及教訓」に就いて講演せるが
聽衆四百名盛會なりき。

●因に新教室は同院中學部卒業生在神戸勝田銀
次郎氏の寄附に係る者にして建築費貳拾五萬
圓を投せる者頗る宏壯なる建築なり。

●早稲田中學校教職員諸氏の平沼學長招待
早稲田中學校教職員諸氏は今回平沼博士本大
學學長に就任と共に同校の教職を辭任せられ
たるに付同博士を十一月十二日午後五時神樂
坂青陽樓に招待して送別兼祝賀會の催しあり
たり。

●早速維持員嚴君の逝去 維持員早速整爾氏
嚴君藝備日日新聞社主勝三氏十一月六日郷里
廣島に於いて逝去せられ、同十日同市本派本
願寺別院に於いて葬儀執行せられたるが、本
大學よりは、大隈總長、平沼學長、理事松平伯
淺野、鹽澤、田中三博士より花輪を供へられ
評議員森田卓爾氏校友會を代表して弔辭を朗
讀せられたり。

●黒川前評議員逝去 本大學前評議員校友黒
川九馬氏は豫て宿痼療養中の處藥石效なく遂
に十一月十五日逝去せられたり。氏は明治十
八年邦語法律科出身にして、卒業後鐵道事業
に盡瘁し、彼の明治二十五年第三議會に於い
て貴衆兩院を通過し、立憲的の日本が制定した
る最初の法律たる鐵道布設法の議案として衆

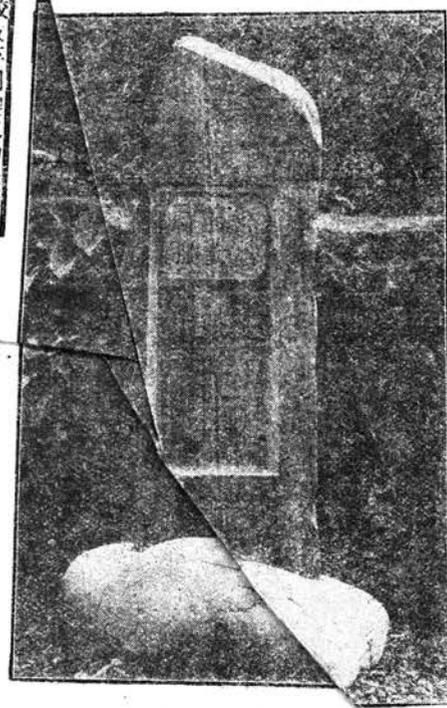
議院に提出せらるゝに至るまでの經過運動に
氏の與りて力ありし事は斯界同志の周知せし
所なりき。爾後本大學の評議員として力を致
されたる功勞尠からざりしが、今回宿痼の爲
め遂に其の逝去を見るに至りたるは痛惜に堪
へざる所なり。
葬儀は十一月十七日小石川養國寺に於いて營
まれたるが、憲政會を代表したる代議士頼母
木桂吉氏の弔辭、本大學校友會を代表せる前
田多藏氏の弔辭朗讀あり。後ち高田博士友人
總代として一般會葬者に對する挨拶あり。盛
儀に執り行はれたり。

●工藤前早稲田工手學校講師の逝去 前早稻
田工手學校講師校友工藤祐山氏は今春不圖病
を獲られ爲めに辭任専ら療養に力められ一時
稍輕快に赴かれたる模様なりしが、後ち再び
病勢重り遂に十一月十四日溘焉として逝去せ
られたり。氏は明治廿五年英語政治科出身に
して、卒業の後ち石川縣金澤農學校に教鞭を
執られしが、明治廿八年本大學に清國留學生
部の設けらるゝ、や留學生部寄宿舎長として善
隣學生監督の任に當り、後ち該留學生部の廢
止せらるゝと共に本部寄宿舎々長に就任し、
更に早稲田工手學校講師に轉じ専ら英語教授
を擔任せられしが、不幸病を獲て起たず、遂
に悲報に接するに至る痛惜の至りなり。
葬儀は十一月十六日午後三時込區若松町清
源寺に於いて營まれ、前田幹事を始め教職員
多數の會葬あり。前田幹事平沼校友會會長の
弔辭を代讀し、後ち遺族並に會葬者一同燒香
あり退散せるは薄暮の頃なりき。
●故井上元規氏追悼會 明治二十九年文科、
同三十一年政治科卒業校友井上元規氏は、十

學生會合

有餘年間出版部質問應答の職に従ひ、藏書裏に獨身生活を續け來りし篤學者なりしが、今夏郷里宮に歸省中宿病重り、逝去せられたれば、去十一月廿五日午後三時半、特に上京せられたる同氏の親戚岐阜郵便局長川島友次郎氏を招待し、出版部主催となり、土屋高等豫科主事國憲として幹旋し、本部よりは前田幹事列席、日清印刷會社員、早稻田大學校友會代表者等三十餘名參列、生込區榎山濟松寺に於て鄭重なる追悼會を執行せり。

●政治學會消息(大正八年度) 政政學經濟學の自修研究を目的として多年政治科の研究機關たりし我が政治學會は、基礎の鞏固を計ると共に會員に對し參考資料を供せん爲め、從來のプログラムに多少變更を加へ、本會顧問たる諸教授指導の下に各種研究設備を調べ、此處に會の内容一新を企圖せり。



郷里和歌山縣湯淺町に建立せられたる石碑の像と性徳の兩風暴日一月十年時(のり高し) 郷里和歌山縣湯淺町に建立せられたる石碑の像と性徳の兩風暴日一月十年時(のり高し)

研究參考の爲め會員六十名東京日新新聞社に參集し、社員小野賢一郎氏の經營其他所謂新聞學に付き懇篤詳細なる説明を聴取し、編輯部機械部其

●校友平田龍之助氏逝去 氏は明治二十八年邦語法律科の出身にして、卒業後、崎商業會講所議員、日清生命保險會社九州支社監督、山下コークス會社事務取締役等の事に従ひ其の才能を發揮して令名あり。殊に本大學の發展に對し直接間接に致されたる功勞少からざる者ありしが、十一月三十日郷里長崎に於いて逝去せられたるは痛惜の至りなり。

他を實地見學せり。 ▲本年度第一回月次講演會(十月十九日) 第一回月次講演會を政治科第十八教室に開催す 講演者左の如し。 政治學研究に付きて 顧問 ドクトルオアホロソフイー 高橋 講師 經濟學研究に付きて 顧問 法學博士 鹽澤 教授 大隈侯と大觀 顧問 法學士 五來 講師 參集會員五十名。各講師専門智識を傾注せら

れ會員又得る處多くなりき。午後四時散會。(幹事)

本號「校友會報」欄内記事時中。後札の感ある者は前號に記載すべかりしを記事編輯の爲め本號に廻はすの止む可らざるに至れる爲めと諒恕を請ふ。本號記事編輯に就き「學生會合」欄の一部を次號に廻はすの止むを得ざるに至れり讀者及執筆諸君の諒恕を請ふ。

友青山 東園君著

油話之カレ滑稽法

(新形美本)

成功の最大要素は交際上手にありそは機に臨みて洒落滑稽を活用するに在り如何に高邁の識見を藏し廉潔の人格を保有する者も交際下手のため不遇に在る者が少くない本書は此缺點を補ふ可く生れたもので官吏に商人に會社員に必讀の書也其分類法の哲學的にして其例題の奇抜なる一讀お臍の位置をかへずんば措かず(團體注文は特に前金を要せず)定價四十五錢送料四錢二部以上一割五部以上注文は二割引

版元

東京赤坂檜町六番地

豐文社書院

振替東京四一七七〇番

定價 一部郵稅共 金拾錢
廣告料 一回一頁金參拾圓半頁金拾六圓四分ノ一金拾圓

大正七年十二月十日印刷
大正七年十二月十日發行
東京市牛込區白銀町二十九番地三十五號 編輯兼發行人 前田多藏
印刷者 渡邊八太郎 東京市牛込區榎町七番地
印刷所 日清印刷株式會社 府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六百四十七番地
發行所 早稻田大學 早稻田大學校友會

參版發行既に定評あり

シエーク
スピア
傑作集
(第十二)

冬の夜をふかし

ついで先年英のバーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作で、今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜歌劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を含まないものは沙翁を語る權利がないのである。

四版六布製函入
挿圖壹拾五錢
正價壹拾八錢
郵税

文 學 博 士 坪内逍遙譯

スピア
傑作集
(第十三)

リチャード三世

沙翁が習作時代の傑作で、その正史劇の標本、主人公は僞僕で容貌の醜い悪魔的天才、作者はニイチエが大発見らし、自へた逆道徳の骨子を三百年前に此天才に道破させてゐる、エリザ劇勃興當時の代表作、既十二篇とは全く撰を異にしてゐる。

四版六布製函入
挿圖壹拾五錢
正價壹拾八錢
郵税

【刊 既】

ハムレット	ロミオとジュリエット	オセロ
リヤ	ジュリアス・シーザー	エニスの商人
テムペスト	アントニーとクレオパトラ	眞夏の夜の夢
マクベス	以尺	眞夏の夜の夢

●四六判布製天金函入
各書圖五拾錢郵税各八錢

—【所 捌 賣】—

野星・館文盛・堂海東・館隆北・堂誠至・堂京東
(屋古名) (設大) (橋京) (橋京) (橋本日) (田神)

發行所
東京早稲田
早稲田大出版部
振替東京一三二番